第２回部会
R元（2019）.12.3 （まちと活力）
R元（2019）.12.4（地域とくらし）
参考資料

仙台市総合計画と都市計画マスタープランへの提言書

チャレンジシティ仙台

2019年10月

仙台活性化まちづくり2030検討委員会
仙台商工会議所

ご挨拶

東日本大震災から８年７ヶ月が過ぎ、甚大な被害を受けた東北の沿岸地域は着実に復興の歩みを続けているものの、依然としてさまざまな課題を抱えております。

仙台市においては、早期の復興により東北全体の復興を牽引する観点から期間を５年とした震災復興計画を 2016 年３月に終え、期間終了後においても長期的な視点による復興を推進してきました。

このような中で、次のステップに向かって長期的な市政運営の礎となる 2021 年からの仙台市総合計画と都市計画マスタープランの策定に取り組まれております。

当所におきましても、商工業者の立場で、１０年先を見据えた仙台の将来像について提言するべく２０１８年８月に「仙台活性化まちづくり２０３０検討委員会」を設置し議論を進めてまいりました。

震災からの約８年間、我々商工業者を取り巻く環境は大きく変化し、同時に、少子高齢化や情報ネットワークの高度化などさまざまな面において社会の多様化が進みました。仙台が将来にわたって都市間競争の中で選ばれ続け、持続的に発展を続けていくためには、しっかりとしたまちづくりの将来像を描くことが必要不可欠であります。このことから、本提言では、都心のまちづくりをメインテーマに【チャレンジシティ仙台】と銘打った５つの指針とアクションプランを提示しております。

仙台商工会議所としても、復興需要が終息に向かう中、仙台都心部の再構築を積極的に提案し、産業と雇用の高度化をはかり、東北の中枢都市として今後ますます発展していくよう仙台市はもちろん、商工業者、関係団体、教育・研究機関、市民の皆さまと力をあわせて提言の具現化に取り組んでまいりたいと存じます。

２０１９年１０月吉日

仙台商工会議所

会頭　鎌田 宏

はじめに

仙台市はいま、大きな転換点にある。あの未曽有の大災害、東日本大震災からの復興が一段落しつつある一方で、経済的にはむしろその復興需要の終息による悪影響が懸念されている。さらには、情報化の進展や社会環境の変化等の課題に対応し、経済を持続的に発展させ、東北の中枢都市としての役割を果たすことが求められている。そのためには、経済活動の中心地としての都心部の活性化が、喫緊の課題である。

このような問題意識の下でまとめられたのが、本提言【チャレンジシティ仙台】である。ここでは、多様な主体による既存の枠組みを超えたチャレンジを積極的に推進し、産業と雇用の高度化を図るための政策指針を 5 項目にわたり示している。

本提言は、委員の方々の 10 回以上にわたる非常に熱い議論を経て、作成された。議論の過程では、各委員の仙台市の現状に対する危機感の大きさと、それに対する個の対応力の高さが非常に印象的であった。それゆえに、民間各セクターが、さらには官民が同じ方向を向くことの重要性を一層強く感じた。

当初はかなり多様な意見も出されたが、議論を重ねる中で出された共通項を紡ぎ合わせることにより、一定の方向性が見えてきた。これはもちろん、とりまとめ役を担われた事務局の皆様方のご尽力によるところも大きい。

本計画が市の総合計画や都市計画マスタープランに反映され、ひいては仙台市が持続的に経済発展していくための環境づくりに関係者が一体となって取り組んでいく際の一助となることを、切に願っている。

２０１９年１０月吉日

仙台活性化まちづくり２０３０検討委員会 委員長
東北大学大学院工学研究科 准教授
姥浦 道生

目　次

はじめに　・・・１

仙台活性化まちづくりに向けた課題　・・・４

ビジョン　【チャレンジシティ仙台】　・・１２

指針１　都心の魅力を磨く回遊都市　・・１６

指針２　付加価値を高める研究開発都市　・・２６

指針３　個性で稼ぐ商都　・・３０

指針４　東北の拠点となる国際交流都市　・・３４

指針５　若者を惹きつける文化創造都市　・・３８

仙台活性化まちづくり 2030 検討委員会
検討経緯 / 委員名簿　・・４２

巻末付録　　中間提言

仙台活性化まちづくりに向けた課題

社会経済環境が変化する大きな転換点における仙台

少子高齢化と人口減少が顕著に進行する日本の地方の一つとして、仙台もまた時代の転換点の真っ只中にいる。しかし、仙台は東北地方における唯一の政令市であり中核都市として、その影響は最も少なく、仙台都市圏では人口が増加する市町もある。そのため、地方が直面する危機に対する肌感覚が乏しく、問題意識が共有されにくいことが課題の一つとも言える。一方で、危機に直面する東北地方を支えるためにも仙台の産業と雇用の高度化をはかり、活力を持続しつつ、仙台に集まる人や資源を東北全体に還流することが求められている。

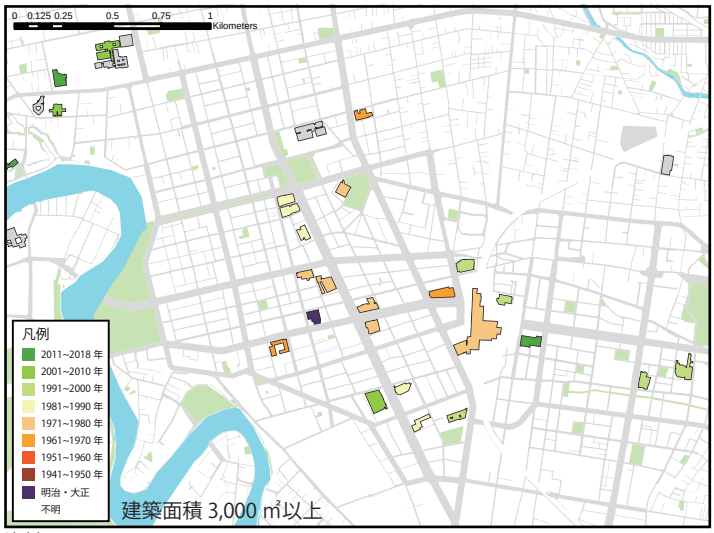
【危機感を共有し東北の未来へ】

1. 都心市街地の課題

【復興優先による市街地更新の遅れとそれに起因する都市間競争力の低下】

中心市街地では建築面積 3000 ㎡以上の大規模な建物の老朽化が進んでいる。商業・業務ビルについては現地建て替えが困難であるため、順次玉突き型での更新が求められる一方、社会経済状況については伸び悩んでおり、復興が優先される中で大規模な投資もなく、市街地の更新が進んでいない。

指針 1

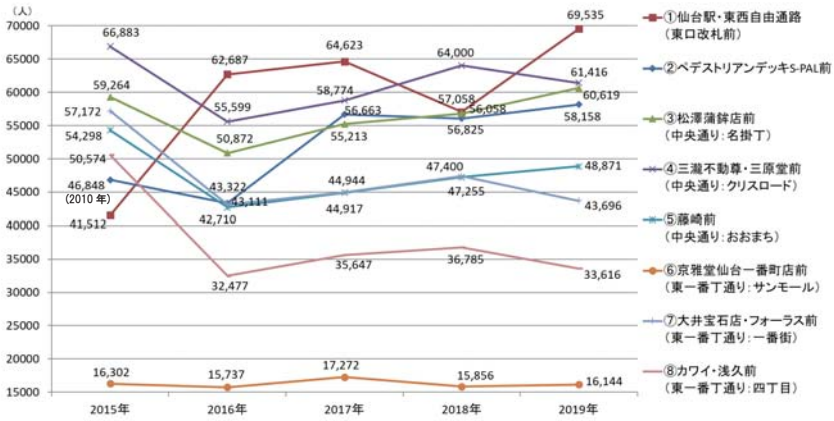


資料：※
仙台三越本館・定禅寺通り館（RC・SRC、８階、昭和６２年、２０５０年時点で築６５年）
仙台第一生命タワービル（S、２０階、昭和６０年、２０５０年時点で築６７年）
河北新報社（RC・SRC、９階、昭和６３年、２０５０年時点で築６４年）
仙台フォーラス（RC・SRC、９階、昭和５０年、２０５０年時点で築７５年）
イオン仙台店（RC・SRC、１０階、昭和５０年、２０５０年時点で築７５年）
七十七銀行本店（S、１４階、昭和５２年、２０５０年時点で築７３年）
電力ホール（RC・SRC、６階、昭和４７年、２０５０年時点で築７８年）
NTT 東日本宮城支店（RC・SRC、７階、昭和４５年、２０５０年時点で築８０年）
旧さくらの百貨店（RC・SRC、９階、昭和４４年、２０５０年時点で築８１年）
旧 NHK 仙台放送局（RC・SRC、５階、昭和３７年、２０５０年時点で築８８年）
藤崎（RC・SRC、７階、昭和７年、２０５０年時点で築１１８年）

【人の流れが駅前に集中】

歩行者通行量調査から仙台駅前に人の流れが集中しており、他エリアへの回遊が減少傾向である。

指針 1

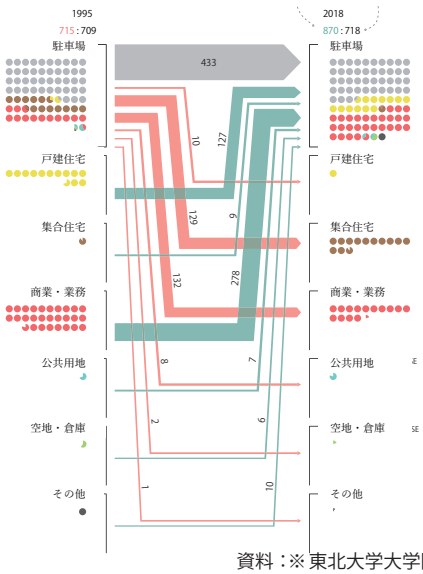


資料：中心商店街の通行量調査　仙台市・仙台商工会議所

【都心の平面駐車場，集合住宅の増加による１階の賑わい不連続】

駐車場、集合住宅が増加し、商業・業務機能が減少していることからも、１階の沿道に対する賑わいや表情は大幅に減少し、街の連続感を阻害する要因となっている。

指針 1



空間分布

・駐車場の数は 2 割強の増加にもかかわらず、土地利用には大きな変化が生じている。

・戸建住宅、商業・業務系の用途であった土地が、1995 年から 2018 年の間に駐車場となったものが多い。

・1995 年時点で駐車場であった土地の多くは、そのまま駐車場として用いられているが、用途変更したものは、集合住宅や商業・業務系の用途に変化しているものが多い。

資料：※東北大学大学院工学研究科 都市・建築学専攻　姥浦研究室
仙台都心マスタープラン ～出会いを楽しむ仙台～ 2018 より

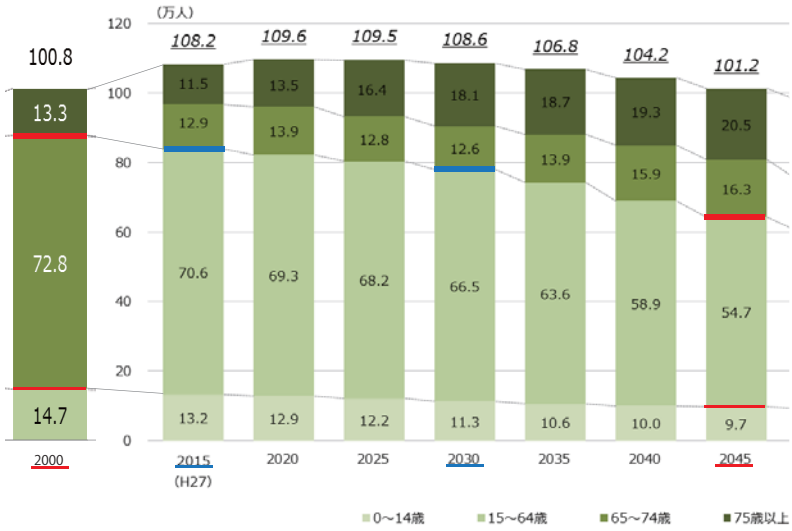
2. 人口の課題

【生産年齢人口の減少】

2015 年から 2030 年の間に生産年齢人口は 4.1 万人減少する。（全人口はほぼ同数）なお、2045 年には人口同数の 2000 年と比較すると 18.1 万人少ない 54.7 万人となる。
年少人口も 5 万人少ない一方、高齢者が 23.5 万人増加する事になる。

指針 2

図　将来人口推計

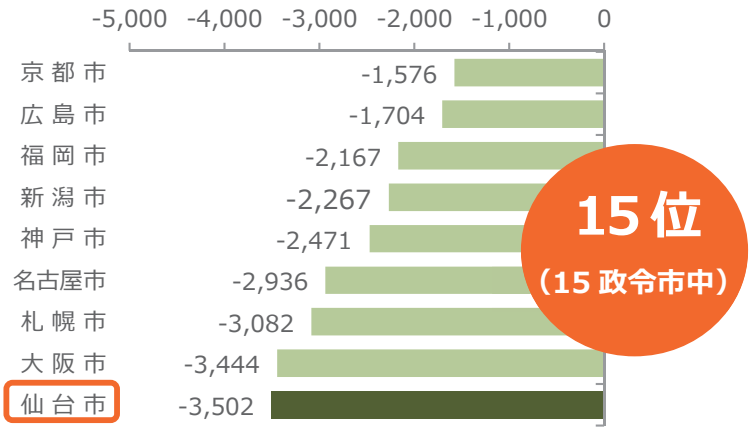


出典：まちづくり政策局資料

【人材の流出】

東京圏から来る人と東京圏へ出ていく人の差が、政令市の中で最も多い -3,502 人の転出超過である。

指針 2



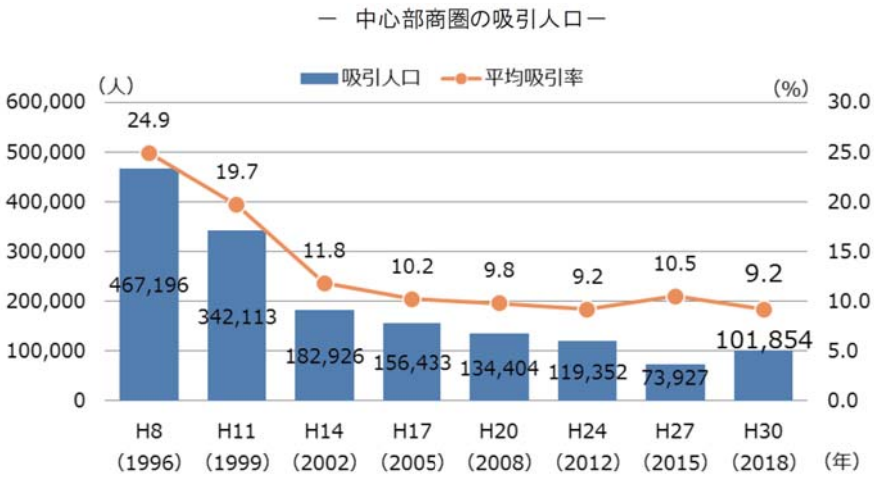
（H29 年、東京圏に対する転入超過数、東京圏政令市を除く、人）

出典：　　住民基本台帳移動報告（総務省統計局）
注：住民基本台帳人口（日本人のみ）

【商圏の吸引人口の縮小】

仙台市中心部の交流可能圏域は高速道路網などにより拡大しているが、仙台市中心部の吸引率が減少しているため商圏の吸引人口は減少してきている。

指針 3



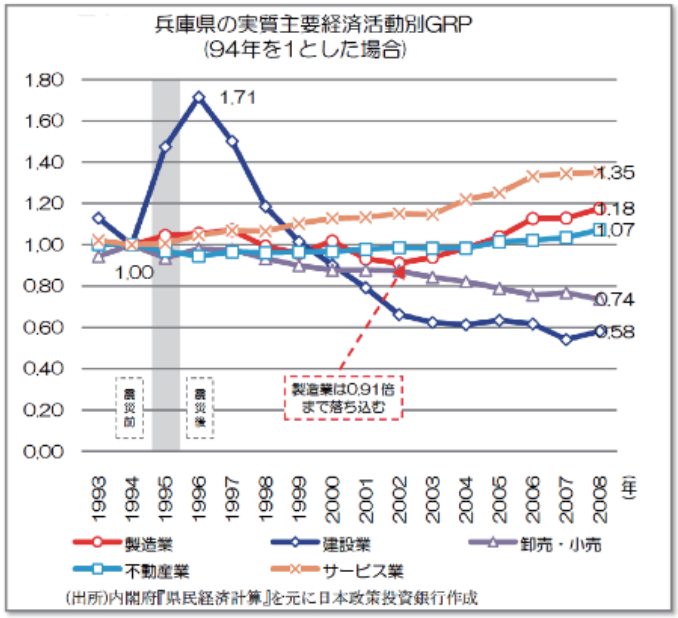
出典：宮城県の商圏（宮城県）
注：吸引人口＝商圏人口に買回品の購買先支持率を乗じて得た数値。平均吸引率＝吸引人口を商圏人口で除して得た数値。

3. 経済の課題

【復興特需による経済のリバウンド】

東日本大震災後に市内総生産が５兆円に達しているのは復興による建設業（公共投資）の増加や約４万人の人口増加によるものが大きい。しかし、これは１９９５年の阪神・淡路大震災の時も同様のことが起きており、一時的な復興需要が無くなると以前よりも急激に減少するリバウンドが報告されている。人口減少時代にこのリバウンド対策が後手に回ると、兵庫の例以上に悪化することは明白である。特に雇用が急減し、生産人口の流出が加速することで、支店経済で支えていた仙台の屋台骨が崩れ、市内経済が悪循環に陥ることになる。

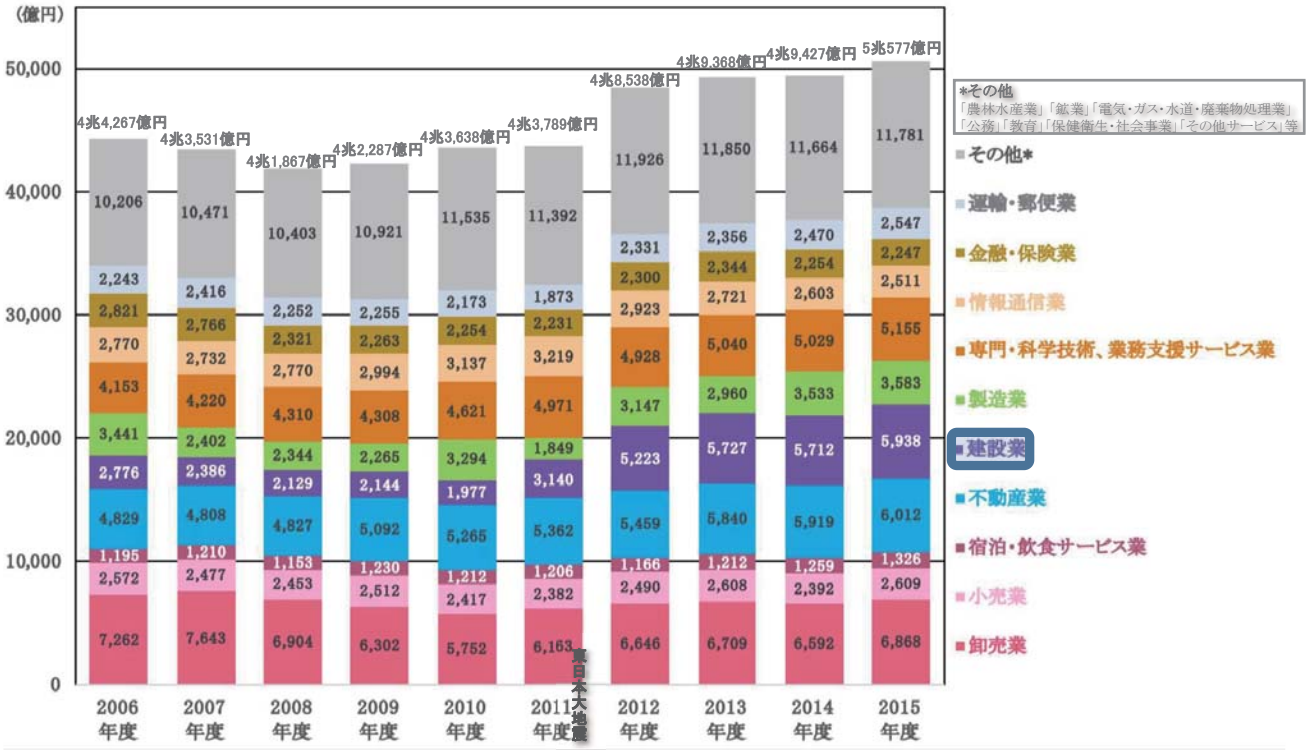
大震災が地域経済に与える影響について
～阪神•淡路大震災をケーススタディとして



2011 年 12 月 22 日 (株) 日本政策投資銀行関西支店 / 東北支店

仙台市の経済活動別市内総生産(名目)の推移【2006～2015年度】

- 市内総生産が最も低い2008年度(4兆1,867億円)から2015年度(5兆577億円)では、8,710億円(約20%)増加
- その内容を見ると、復興需要(公共投資)による「建設業」(約4千億円弱)が押し上げている
- 復興需要が終息に向かう中、「建設業」の民間投資の促進と、他の産業も戦略的に伸ばしていく必要がある



【資料】平成27年度 仙台市の市民経済計算

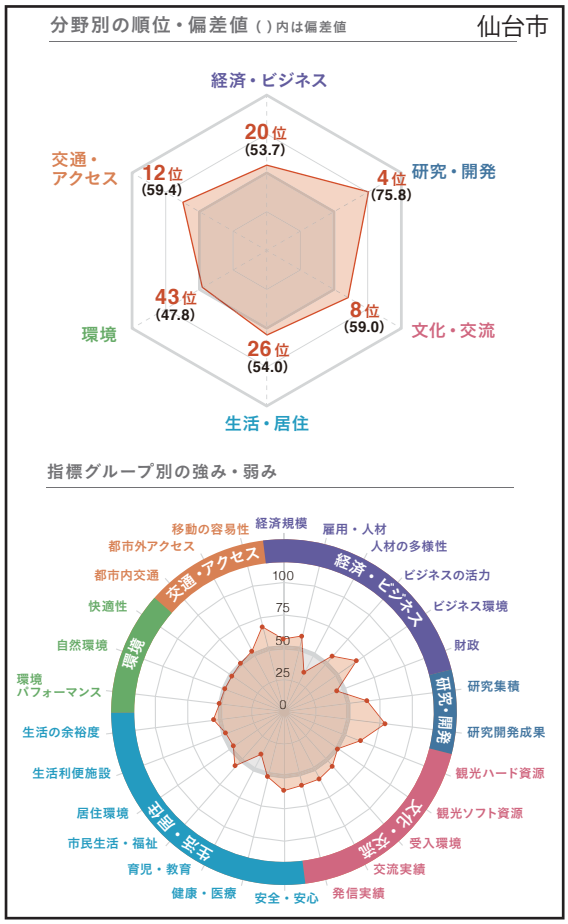
4. ビジネスの課題

【研究開発のポテンシャルがビジネスに結びついていない】

文化的魅力を有する学術・研究都市

仙台市は、高い都市機能を持つ大都市でありながら、生活・居住や環境の評価も高いことから、居住者や就業者にとって魅力的な都市と言える。生活・居住は「安全・安心」で、環境は「環境パフォーマンス」でそれぞれ高い評価を得ている。また、研究・開発の評価が際立っており、特に論文投稿数など「研究開発成果」のスコアが高い。また、城下町として発展した歴史を持つ仙台市は、景観まちづくりへの積極度も高く「観光ハード資源」も豊富であることなどから、文化・交流も強みであることがわかる。

指針２



文･資料:日本の都市特性評価 2018 森記念財団都市戦略研究所

【小売業を取りまく環境の変化】

・電子商取引の急速な拡大

日本の消費者向け電子商取引は市場規模の６％、場所によっては 10%を占める（左下）。

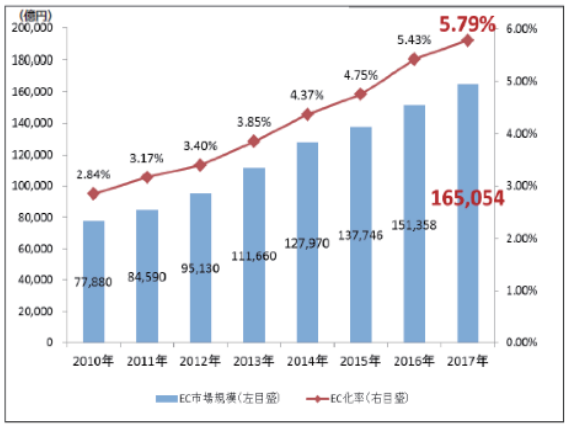
・巨大 SC の増加

仙台は人口減少が他都市に比べて緩やかなので、マーケット的には利益が上がるエリアとみられ、大型ショッピングセンターが増加している（右下）。仙台駅から１０km 圏域（車で３０分）の環状道路沿いに立地。

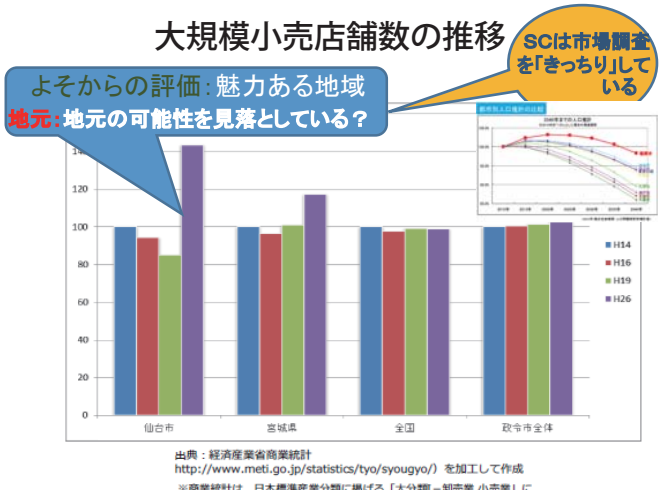
これらに中心部商店街が対抗する戦略は見えていない。

指針３

日本の電子商取引市場規模の推移



大規模小売店舗数の推移



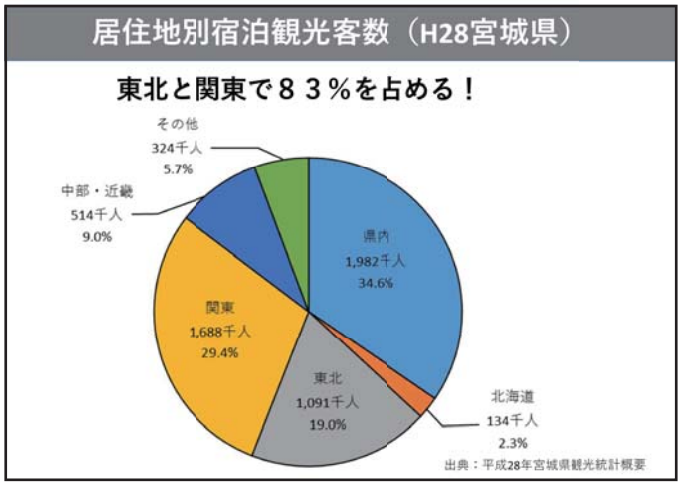
資料：（一社）まちくる仙台 事務局長 石井 光二氏

5. 観光・文化の課題

【日本国内からの交流人口の獲得とインバウンドの地域経済への反映】

宮城県での宿泊者の８３％は東北と関東が占める。飛行機の利用者が少ない。千歳空港は年間 2,000 万人を超えるが、仙台は新幹線乗降客を合わせても 1,300 万人前後である。

指針４

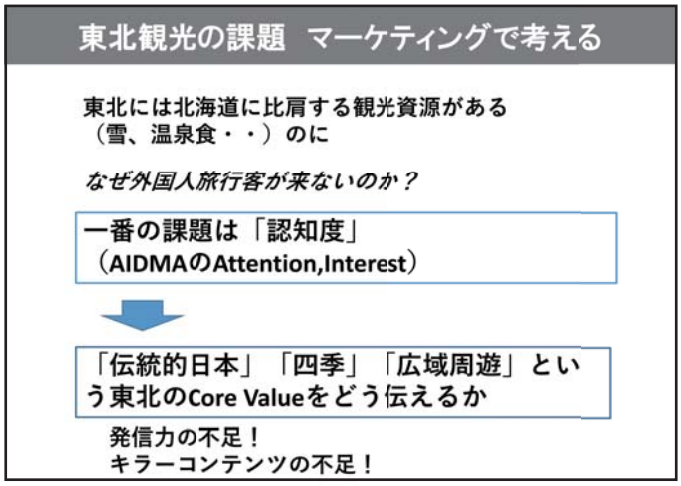


資料：仙台国際空港（株）岩井 卓也 代表取締役

【発信力，キラーコンテンツの不足】

知られなければ来ることはない。まず知っていただいてから、おもてなしの準備をする。その際に最も発信力のあるキラーコンテンツを発掘し磨き上げ、全体で波及拡大を図る。

指針４



資料：仙台国際空港（株）岩井 卓也 代表取締役

【仙台らしさ，文化，魅力の減少，魅力の磨込み不足】

■これまでの観光とこれからの観光

	これまでの観光	これからの観光
旅の形	非日常型	生活体験型（異日常型）
旅の目的	名所・旧跡 金銭消費・物見遊山	テーマ性の強い旅 時間消費
地域との関係	観光スポット、観光事業者が地域と乖離	地域の生活エリアでの交流
旅の経済性	一点豪華主義	リーズナブルなDIY型 滞在型

文・資料：（株）東北地域環境研究室　志賀 秀一 代表

受入側はどう対応すべきか

（１）観光地にとっては、そこが、滞在し、時間を費やすのに値する地域になっているかどうかが出発点である。キャンペーン等情報発信は大切だが、その前に地域の魅力づくりと魅力づくりのテーマがあるか否かが重要である。

地域としてはお客様は呼んで･連れてくるものではなく”つくる”対象として認識すべきである。

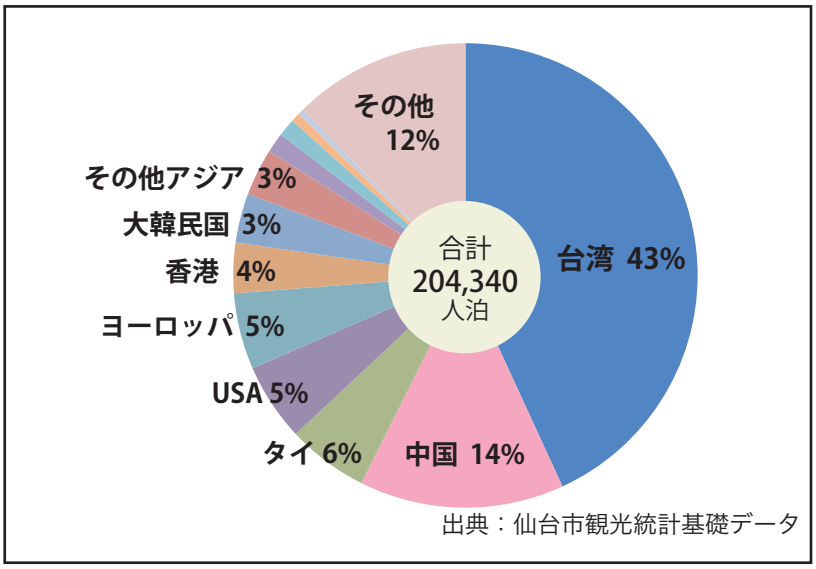
（２）観光客が訪れる動機につながる地域の魅力について、意外に地元の人が理解をしていなかったり、知らなかったりすることが多い。

受入側としての地元では、外からの目線で常に自分たちの地域資源を掘り起こし、磨き込むことが大切である。また、地域を語ることができなければ観光は成り立たない。

指針４

【ターゲットを絞ったインバウンド戦略が必要】

◯外国人宿泊者数　国・地域別割合（2018 年）



仙台市の外国人宿泊者数は年々増加しており、2018 年には２０万人泊を超えた。台湾が４３％と群を抜いて多く、中国、タイ、香港、韓国などアジア地域からの宿泊者が全体の 75% を占める。特に、仙台ータイの定期便がないにもかかわらず、タイの宿泊者数が近年伸びてきている。
これらの国々の人との相互交流を市民レベルで深めていき、より心に響く観光を仙台で開発する必要がある。

指針 4

【中規模ホールの継続性】

最も古い電力ホール (1960 建設) をはじめ、市内のホールは老朽化が進んでいる。宮城県民会館 (1964 建設) は移転改築が検討され、仙台市民会館 (1973 建設) も老朽化が進行している。そのような中、仙台市は２０００席規模の音楽ホールを構想しているが、将来的に中心部に５００～１０００席の演劇等の利用を中心とした中規模のホールが欠落してしまう。現在、大規模ホールへの期待と議論が高まっているが、特に演劇は役者の表情がわかる中規模ホールが必要とされる。使い勝手が良く、多ジャンルの舞台創造を担うホールは、都心の賑わい創出拠点として欠かすことのできない機能である。

指針 5

ビジョン【チャレンジシティ仙台】

社会が大きく変化する時代においても仙台が持続的に発展するために、多様な人や企業が仙台でチャレンジしやすい環境づくりと官民協働による既存の枠組みを超えたチャレンジを積極的に推進することにより、産業と雇用の高度化を図り、仙台発の新たな価値を創出する。

【チャレンジシティ仙台】（５つの指針）

社会が大きく変化する時代であり、特に仙台は復興需要の収束による経済の縮小が市内に大きな影響を与えると想定される。その趨勢に抗いつつ、世界の都市間競争の中で、仙台中心部は先を見据えた新たな取り組みの牽引役となり、大きな期待と責任を背負ってチャレンジすることが求められる。仙台全体としての課題は多岐にわたるが、今回は都心のまちづくりをメインテーマとしている。

土台となるのは守りではなく攻めの姿勢。これまでも、困難と思われる事例にも果敢にトライし成果を上げてきたように、失敗を恐れずにチャレンジし飛躍する、このような事例をまちづくりやビジネスにおいても積み重ねていくことが必要となる。仙台都心の活力が宮城や東北全域を盛り上げていくための産業と雇用の高度化を目指したビジョンと指針を構想した。

短期的な対策として、民間投資を誘発する規制緩和などの支援を早期に行い、都市機能の高度化を図り企業誘致、賑わい創出などで都心の魅力を磨く【回遊都市】（指針１）。

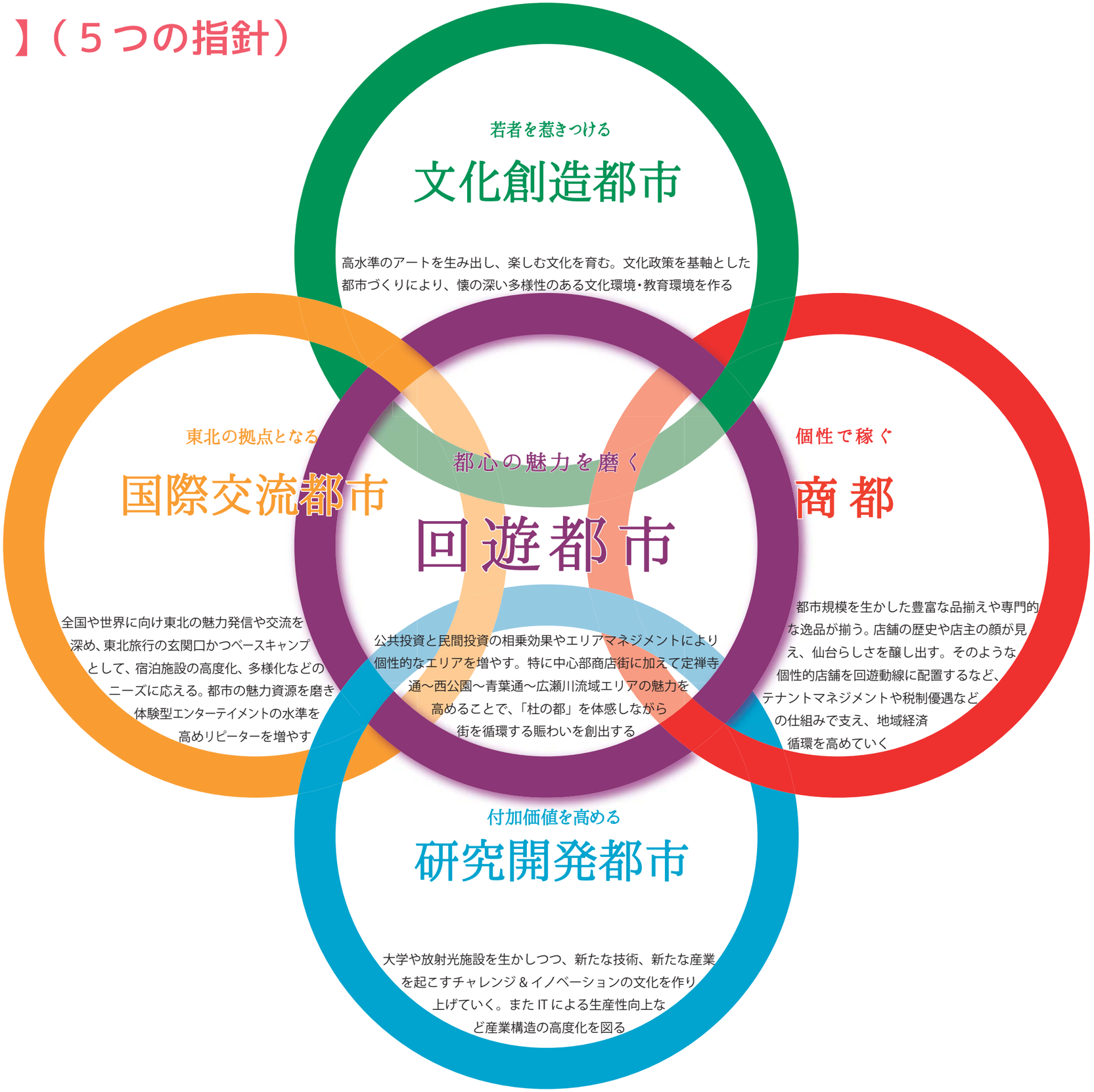
長期的な対策として、高付加価値を生む金融・保険、情報通信、専門・科学技術、業務支援サービスを伸ばすことで、卸売･小売業を支える【研究開発都市】（指針２）。

卸売・小売業については仙台の個性として街やエリアと一体で新たな価値を生み出す【商都仙台】（指針３）。

東北の拠点としてインバウンドの受け入れに磨きをかけ、アウトバウンドを増やし、情報発信を高めて仙台・東北のリピーターを増やす【国際交流都市】（指針４）。

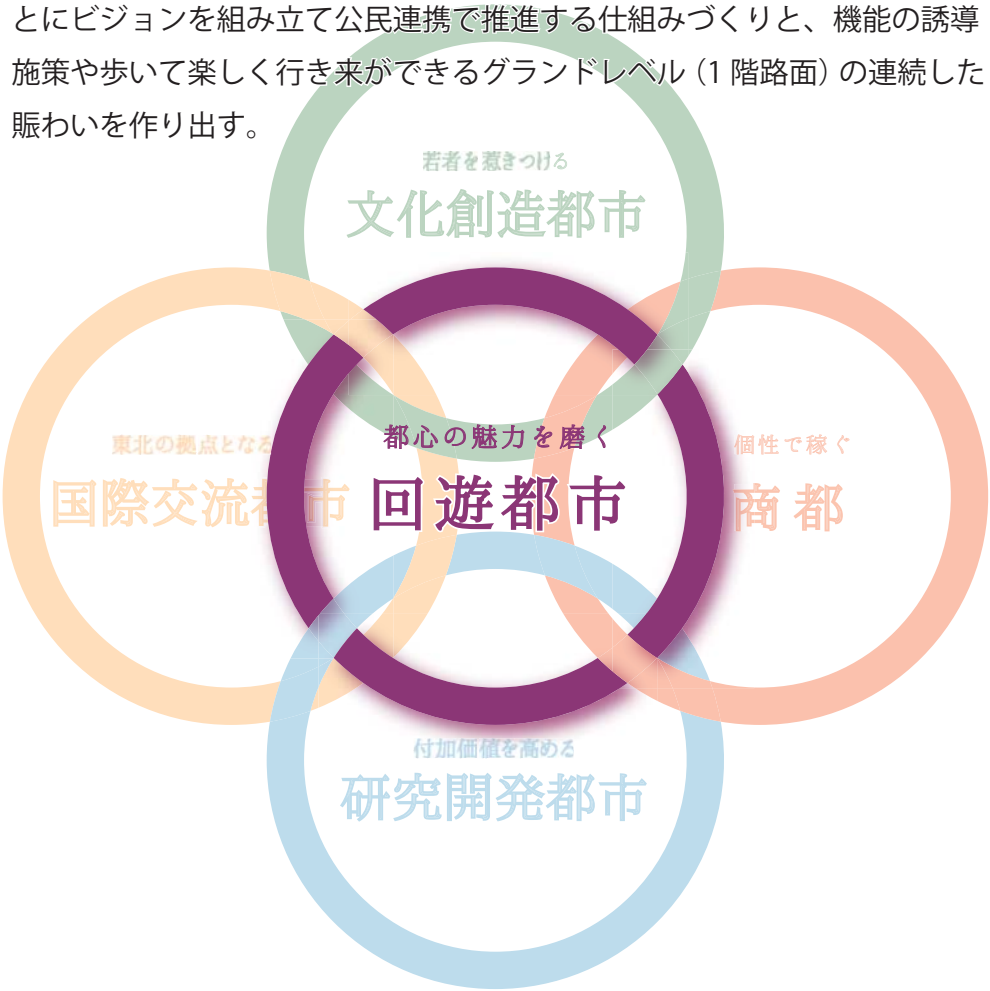
文化・エンターテイメントの水準を上げることで、宿泊・飲食サービス、運輸などの観光産業を支えつつ、若者を惹きつける【文化創造都市】（指針５）。

この５つを指針とする。



指針 1　都心の魅力を磨く回遊都市

公共投資と民間投資の相乗効果やエリアマネジメントにより、個性的なエリアを増やし、都心のそれぞれで特徴的な賑わいをつくる。仙台の魅力「杜の都」を体感しながら循環する賑わいを創出する。そのために、エリアごとにビジョンを組み立て公民連携で推進する仕組みづくりと、機能の誘導施策や歩いて楽しく行き来ができるグランドレベル（1 階路面）の連続した賑わいを作り出す。



都心の魅力を磨く回遊都市

1. エリアマネジメントによるシンボルエリアの魅力強化

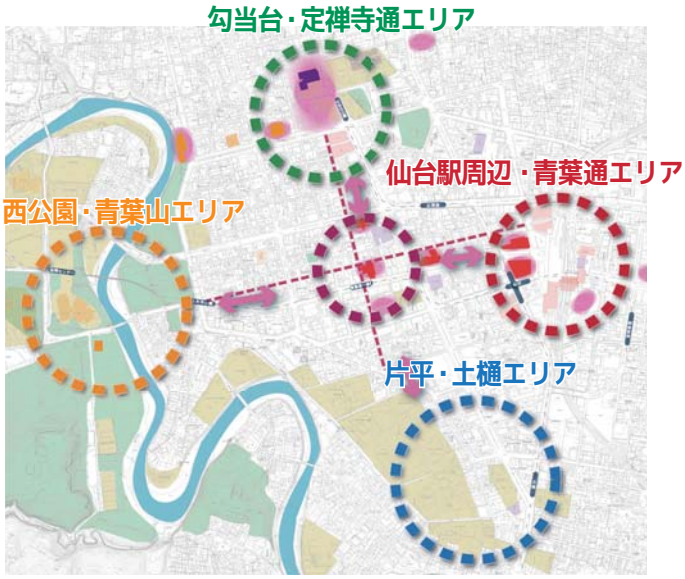
［仙台駅周辺・青葉通▶ビジネス拠点］

［片平・土樋▶学都］

［勾当台・定禅寺通~西公園・青葉山▶杜の都］

2. 民間投資•公共投資の相乗効果による拠点強化

3. アクセス向上と楽しく歩けるまちづくり



勾当台・定禅寺通エリア

都心全体の回遊を増すには勾当台から西公園へとつながる定禅寺通エリアの活性化が重要となる。勾当台・定禅寺通エリアは、再整備計画が進む街区や開発余地もあることから、それらをエリアとしてマネジメントし、シンボルロードとして個性を高め、仙台駅周辺と異なるブランドの核としての賑わい創出が喫緊の課題である。

【定禅寺通の雰囲気や将来像にあった商業・文化施設の整備】

年間４０万人以上が来訪する宮城県民会館は移転改築の検討が進んでおり、移転が決定した場合、跡地を定禅寺通の魅力を高める利活用にする事が最も重要である。導入機能としては、例えば、低層部には定禅寺通のブランドを強化する商業機能や現代美術館、使い勝手の良い中規模ホールなど時間消費型の滞在施設、上層階にはホテルなど賑わいを創出する施設が考えられる。民間投資により高水準の機能を誘致するため、周辺の民間所有地も合わせた再開発の検討も期待される。それを進めるために宮城県、仙台市、市民、地元企業の対話の場と共有するビジョンが求められる。

【新市役所低層部と新市民広場の利活用促進整備】

新市庁舎低層部と新市民広場を一体的な民間運営によるアクティビティ強化をはかる。新市庁舎低層部には仙台のまちづくりを誰もが体験できるシティギャラリーや企業や市民が行政と協働でまちづくりを進めていくまちづくりセンター、ソーシャルスタートアップ[※1]の拠点としてなど新たな価値を生み出す機能の導入のほか、東北・仙台の観光情報の提供や物産・商業機能、交通結節機能の導入により、都市のハブとする必要がある。市庁舎の建て替えを機に、勾当台エリアに現在よりも人を誘引する拠点としての整備が求められる。

※1
地域の再生や環境 , 福祉 , 教育など , 大企業や行政などでは手の届かない社会課題をビジネスの手法で解決するベンチャー , 起業家

【定禅寺通のパークストリート化】

定禅寺通は週末に多くのイベントに利用されるシンボルロードだが、さらに日常的にも安全に木陰でゆったり寛いで賑わいを楽しめるよう歩道を拡幅し、自転車を分離するなど道路空間を再整備する。あわせて、広がった歩道空間などのパブリックスペースに沿道店舗の賑わいが滲み出したり、一部占用ができるようにするなどにより、公園のような通りにする。

仙台市「せんだい都心再構築プロジェクト」で示された定禅寺通の将来イメージ

【市民会館周辺のパブリックスペース化】

定禅寺通の西端の市民会館と UR 住宅については、施設としての機能・契約期間を果たした後は、広瀬川を見渡せる公園・広場のようなパブリックスペースとする。崖っ縁の舞台性を帯び、定禅寺通のアクティビティを受け止めるシンボル空間とする。

1. エリアマネジメントによるシンボルエリアの魅力強化

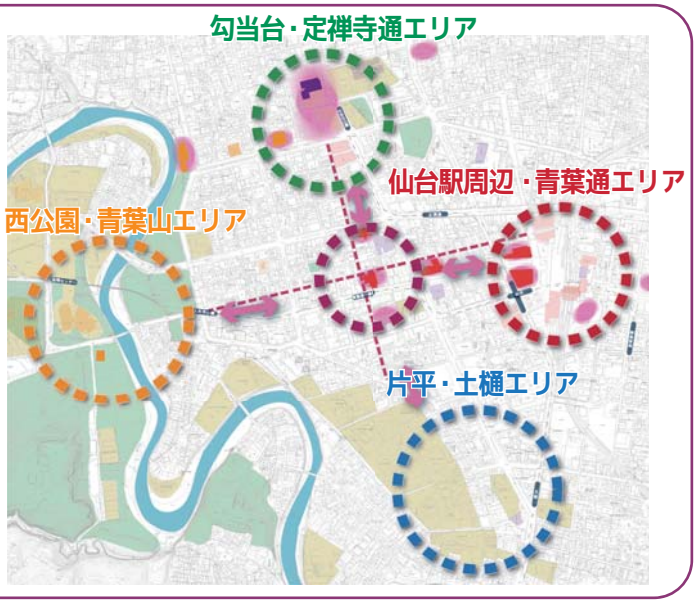
[仙台駅周辺・青葉通▶ビジネス拠点]

[片平・土樋▶学都]

[勾当台・定禅寺通~西公園・青葉山▶杜の都]

2. 民間投資•公共投資の相乗効果による拠点強化

3. アクセス向上と楽しく歩けるまちづくり



西公園・青葉山エリア

【青葉山公園センター（仮称）】

青葉山公園センター（仮称）には、仙台七夕まつりの笹飾りや青葉まつりの山車の実物展示など仙台のお祭り文化を示す観光のゲートポイントとする。周辺エリアは伊達藩が築いた仙台城をはじめ仙台ならではの歴史的遺構や文化施設が集積し、広瀬川など豊かな自然が残る杜の都の「フィールドミュージアム」といえる場所である。場の魅力を引き出すプロの案内人（インタープリター）がとっておきの体験とともにおもてなしをする”仙台インプレッション事業[※1]”を市民協働で推進する。

※1
造語．来訪者に仙台の好印象を与えリピーターを増やす事業

【親水公園／川床】

伊達な川床 2017

仙台のシンボルである広瀬川をより接しやすい親水公園空間とする。なかでも仙台のお城と城下町を繋いでいた大橋周辺で、川の涼しい風を受け、ビールなどを飲むことができる川床を設置し、仙台の夏の風物詩とする。

【西公園周辺まちづくり】

西公園周辺エリアは、定禅寺通や青葉通、地下鉄などを介して都心と繋がり、広瀬川とも接するエリアである。市民が日常的に公園を楽しむ仕組みとして、様々なアクティビティを支えるパークマネージャーとツールを揃えたパークハウスを設置すること、また川を眺めるカフェやギャラリーなど新たな機能を加えることで街の回遊拠点として強化する。

仙台駅周辺・青葉通エリア

【交流の顔・ビジネスの拠点になる仙台駅周辺再開発の推進】

仙台駅周辺エリアは、仙台の玄関口であり顔として、都市観光交流の結節点機能を高め、ビジネスにおける高い拠点性を活かした機能誘導とその集積が求められる。青葉通まちづくり協議会が作成した「青葉通まちづくりビジョン」においても「多様な人々が集う賑わいと、質の高いビジネス空間が調和したターミナルエリア」を目指し、東北随一のビジネスエリアの形成や質の高い業務機能の誘導を図るとされている。加えて、歩行･滞留環境の向上、地下道やペデストリアンデッキを含む歩行者ネットワークの整備や交通事業者等と連携した公共交通ターミナル機能の整備・再編が求められる。

【駅東・宮城野通エリアの集客施設を活かしたまちづくり】

仙台駅東・宮城野通エリアは、スタジアムやホールなど大規模集客施設が立地し、今後は県民会館の移転も予定されており職住と文化スポーツが混在するエリアである。今年８月に設立された「仙台駅東まちづくり協議会」のエリアマネジメントにより、日常的な賑わいの創出、安全安心な住環境の形成、質の高い都市空間の向上などが求められる。

【青葉通エリアのリノベーション】

青葉通は、西から西公園、居住エリア、商業エリア、業務エリア、仙台駅と性格が異なるエリアが連続している。それぞれのエリアの特徴を高めるようリニューアルを図るとともに、青葉通沿道については賑わい機能を連続させて、楽しく快適に歩ける街路空間とする。特に、東二番丁との交差点を歩行者優先のスクランブル交差点とする。また商業エリアには文化交流拠点の創出、居住エリアには職住近接のライフスタイルを推進するような都市型住宅を誘導する。

片平・土樋エリア

【近代建築やキャンパス及びアクセスの整備による学都仙台の強化】

片平・土樋エリアは学都仙台発祥の地であり、東北学院大学五橋キャンパスの整備により１万人以上の学生が集う街になる。安全な歩道などのアクセスとオープンスペースを確保し、近代建築を保全することで市民誰もが学都の雰囲気を感じながら学ぶエリアとなる。また、魯迅などゆかりの人物に関する環境整備や周辺街路の歩道拡幅や電線地中化など、安全に都心と回遊できる整備が求められる。

エリア共通

【防災・環境先進都市】

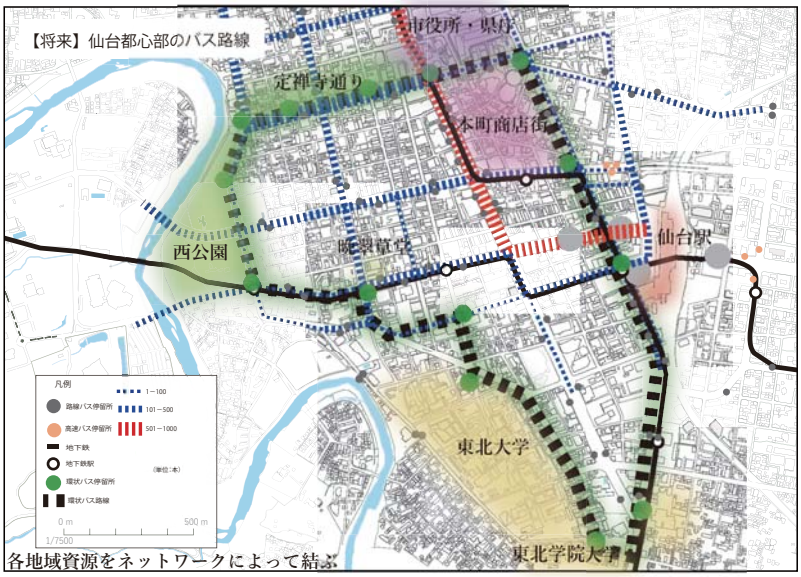
仙台は宮城県沖地震と東日本大震災を乗り越えた災害に強い街であり、首都圏のバックアップ機能を持つ都市として優位性が高い。仙台防災枠組で示される創造的復興（Build Back Better）を体現し、その価値の発信力を高めるためには沿岸部の再生と震災メモリアル施設の充実は欠かせない。市民が海辺との関わりを取り戻し、震災を振り返れるようになることが大切であり、その上、仙台への来訪者に震災と復興の取り組みを伝える機能整備が求められる。また都心部の小学校が地域防災まちづくり拠点として大きな役割を担う。さらに、都市として持続的な発展をしていくためにはSDGｓ等の指針を意識した取り組みを推進し、環境先進都市を目指していかなければならない。

【音楽ホールを契機としたまちづくり】

音楽ホールは都心に立地させる。周辺への波及効果と合わせて、都心全体の回遊性を高めることが求められる。人が集うまちづくりの核となる機能として市民と共に創りあげていく。

【都心循環自動運転バス 】

これまでに提示した各エリアとその間を楽しく歩くための整備とともに、るーぷる仙台のような小型のバスで各エリアを頻度高く低料金で循環する交通が求められる。シンプルでわかりやすい循環ルートとスマホアプリによる乗車案内、自動運転による高頻度運行、キャッシュレスなど、利用促進が重要となる。



東北大学姥浦研究室：小るーぷるの循環ルート案

【都心居住の誘導】

都心周辺部には、郊外からの住み替え需要に対応したマンションの立地誘導をはかり、歩いて暮らせるまちづくりを推進する。ライフステージに応じた住居の選択肢を増やし、都心と郊外の居住サイクルの創出を図る。

【「ウラ街」エリアの個性化】

表通に直接面さないエリアには個人商店も多く、それぞれの地域の雰囲気が醸し出されている。リノベーションによりエリアの個性を際立たせるとともに、路面店などの家守制度や若者が起業にチャレンジできるインキュベーション[※1]機能などのソフトの仕組み作りが求められる。

※1
起業や新事業の創出を支援し , その成長を促進させること

制度等による支援例

【老朽建物の解体費用の補助による改築促進・再開発タネ地の確保】

都心部における 1981 年以前の旧耐震基準で建設された老朽建物の解体費用への補助金により都心の機能更新のタネ地を準備する。既存の未利用地と合わせて活用することで大規模な機能更新を円滑に推進する。

【エリアに求められる機能の誘導】

老朽建物の改築や新規開発時にエリアに必要な機能を導入し、街を随時更新していく。例えば、商業機能や高齢者福祉施設、児童福祉施設など各エリアのビジョンに沿った機能を誘導するため、総合設計による容積緩和、用途別容積率の導入および小規模の建替やリノベーションも対象とした税制の優遇、補助金などの支援策を導入する。

歩きやすく居心地の良い環境整備

【平面駐車場規制、自動車流入規制】

平面駐車場をエリアごとに総量規制し、エリア周辺部へ集約駐車場を誘導する。なお駐車場の沿道に面した一階には店舗機能を義務付けることにより、街のにぎわいを創出する。また、中心部への自動車流入制限により歩行者・自転車優先とする。

【駐車場附置義務緩和】

エリアに望ましい機能を一階に導入することなどを条件に駐車場附置義務を緩和する。また、隔地要件を緩和するとともに、都心部周縁への駐車場への集約を誘導する。

【歩道拡幅 , 歩行者優先エリア】

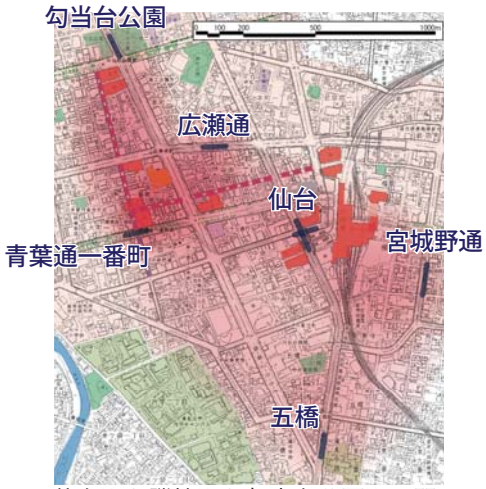
一階に店舗の導入を図るエリアには、面前歩道の拡幅または歩行者優先の交通規制の導入などを組み合わせて官民協働で歩行者に優しく、安心して滞留できるまちづくりを進める。

【マンション低層部への商業機能導入など】

都心エリアにおいてはマンションの低層階への店舗導入を義務付けるなど、沿道への賑わい創出を優先した地区計画とする。

【地下鉄の都心乗り継ぎ緩和】

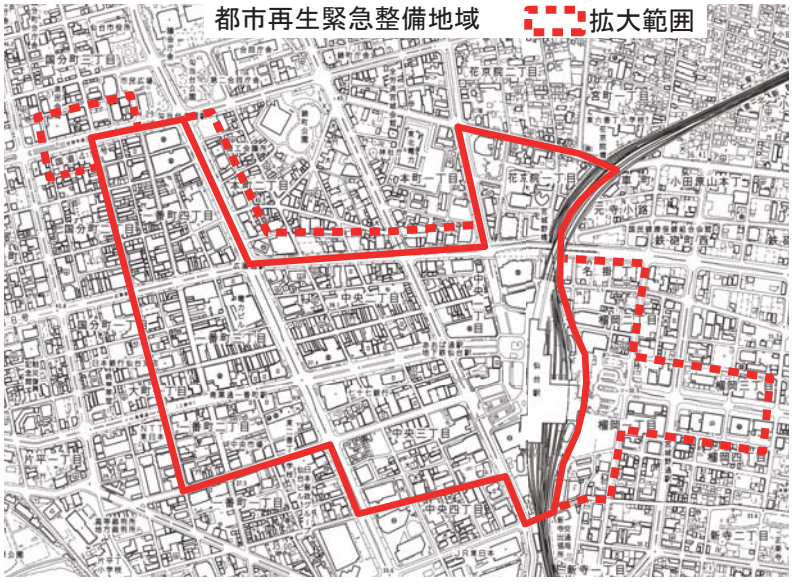
都心駅間の１時間以内の途中下車による乗り継ぎを改札内扱いとすることで、街中でのちょっとした購買や飲食、回遊を促進する。また、都心循環バスとのセット料金など料金体系の工夫により、都心への公共交通によるアクセスを推奨する。



仙台駅と隣接駅と勾当台公園駅の間

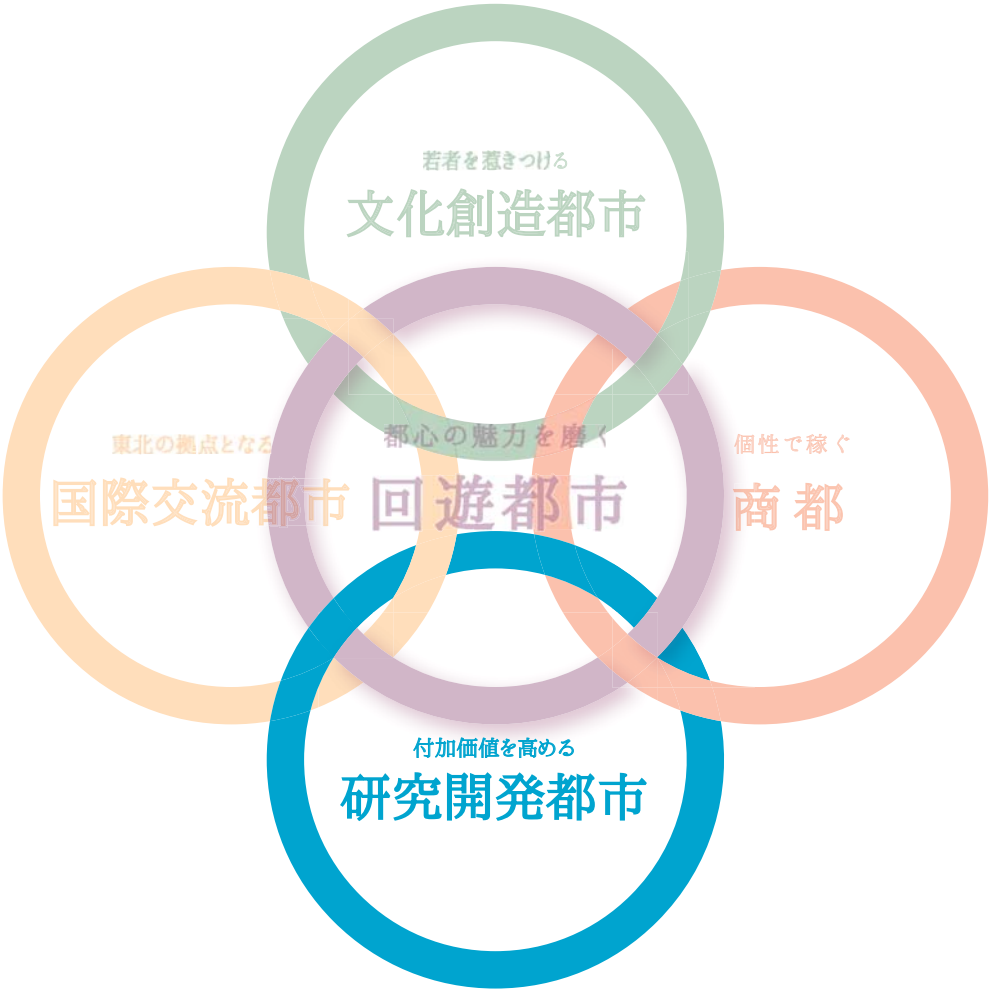
【都市再生緊急整備地域の拡大】

仙台駅東口や定禅寺通りなど拠点性の高い地域については、特に広幅員街路に面したエリアなどにおいて都市再生緊急整備地域に指定されるエリアを拡大することで、都心再構築のスピートアップおよび効果の拡大を図る。



指針２　付加価値を高める研究開発都市

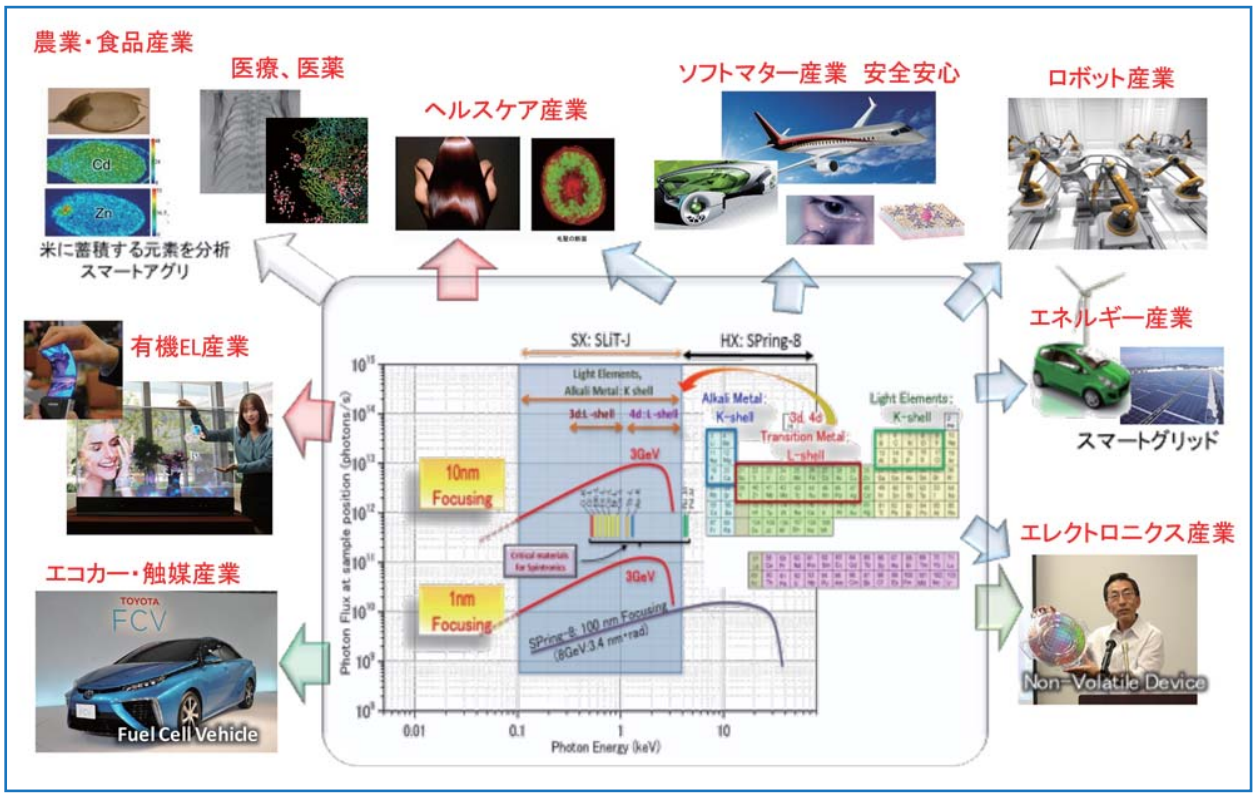
大学や放射光施設を生かしつつ、新たな技術、新たな産業を起こすチャレンジ＆イノベーションの文化を作り上げていく。またITによる生産性向上など産業構造の高度化を図る。



付加価値を高める研究開発都市

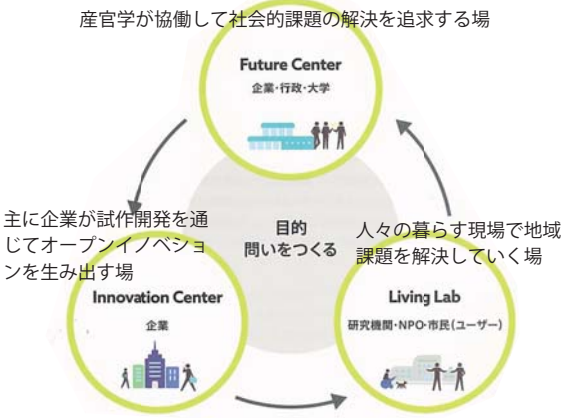
【大学や放射光施設を活かした研究開発により稼ぐ街に】

研究開発から産業へと育てていくために、仙台に数多くある大学や研究機関などの地域の知的資源は大きなアドバンテージとなる。放射光施設は超高精度顕微鏡として多方面の科学技術・産業分野にイノベーションを起こす可能性を有している。それを実現するためにはコウリション・コンセプト（有志連合）を基に官・民・地域の連携体制が欠かせない。大学や研究機関からの積極的な情報発信とそれを地域産業とつなぐコーディネーター役となる中間支援組織が重要であり、コンサルティングによる支援とともに新しい事業にチャレンジしやすい環境・資金、失敗を許容するセーフティーネットを果たす。



出典：SLIT-J ウェブサイト　SPring-8 活用事例から考えられる産業活用のマーケット

【チャレンジ＆イノベーションを促す環境強化】



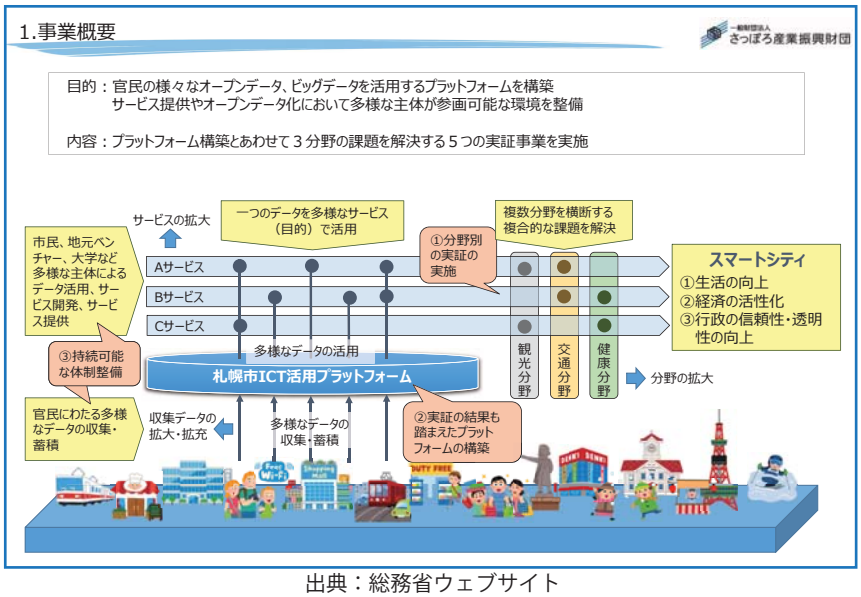
出典：FCAJ ウェブサイト

研究開発の中から様々なビジネスのチャレンジ＆イノベーションを促すには、民間側から新形態ワークプレイスの供給、フューチャーセンター、イノベーションセンター、リビングラボなどのワイズプレイス[※1]が拠点となって起業を支えるエコシステムの環境整備とともに、企業・行政・大学が連携した伴走型支援を行う専門機関が必要となる。

※1
これら３つを統合して、持続的かつ加速度的にイノベーションを興し続ける場

【スマートシティに向けた ICT 官学民連携とデータセンシングの強化】

エネルギーや交通などのインフラや都市施設、人の集散、行政や医療サービスなどの都市の活動についてリアルタイムにデータを集計するセンサーを整備することで、ビッグデータの解析により、効果的なスマートシティの運用が可能になる。これには行政側の調整が必要となるため官学民の共同事業の枠組みが欠かせない。国内外で事例はあるが東北ではまだ進んでいないため、仙台が「実験都市」を宣言しチャレンジする意義は大きい。特区などを活用し次世代技術の一般化に向けた取り組みを牽引する。



出典：総務省ウェブサイト

【X-Tech イノベーションの推進】

デジタルテクノロジーの活用により、日常生活におけるサービスやビジネスにおいてイノーベションを起こす「X -Tech Innovation」の一つとして自動循環バスや AI タクシーなどの交通制御などが挙げられる。多機関で取り組む MaaS としてデータ連動した交通制御プラットフォームの構築が求められている。

【産業の高度化と雇用の多様化による生産性向上】

サイバー空間（仮想空間）とフィジカル空間（現実空間）を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する人間中心の社会（Society5.0）をめざして、既存の産業においてもＩＣＴやＡＩの導入による様々なチャレンジやイノベーションが求められている。生産性を向上させつつ、多様な雇用形態を促進し、ライフステージにあわせたワークスタイルで効果的に仕事を行うことでモチベーションや成果の質を高めていく。

【新たな産業誘致による都心機能の強化】

都心部の老朽建物の建て替えを促し、高機能オフィスの誘導を図ることで、都心部においてもＩＣＴ関連企業や研究開発拠点の誘致につなげることで都心機能を高度化していく。

制度等による支援例

・科学産業への優遇政策

・高機能オフィスの誘導

・研究開発投資

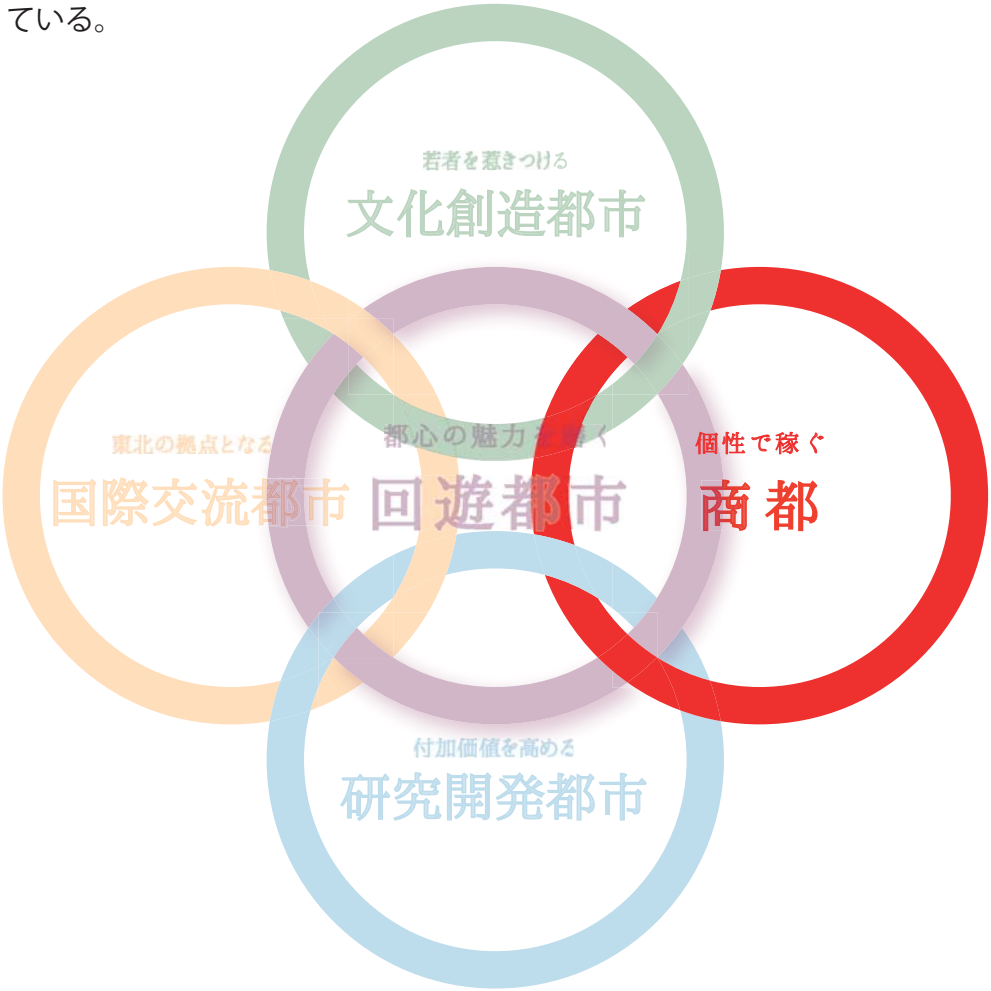
・データセンシング・オープンデータプラットフォームの構築推進

・オープンイノベーションを支えるフューチャーセンターやリビングラボの推進

・優秀な研究者や科学者、スポーツ選手などの招聘をサポートするために家族の生活文化環境の整備、子供の教育環境・保育サービスの水準向上

指針３　個性で稼ぐ商都

小売、卸売業をはじめ物販、サービス業は今後ますます厳しい競争環境となる。商都仙台の持続的な発展をかけて、各個店で取り組む方向性と、商店街やエリアとして目指すビジョンを定め、早急に手を打つ必要に迫られている。



個性で稼ぐ商都

【賑わいづくりの仕組み化】

・キャッシュレスとデータ利活用でスマートに稼ぐ商店街
・インバウンドの誘客強化
　インバウンドの方面ごとに仙台観光に求められる要素を分析し、仙台らしさ、仙台ならではのクオリティを PR する。各店舗ごとの多言語によるおもてなし向上からサインや案内、広告物に至るまで、ソフト・ハード両面の受入態勢の水準を高める。
・全国各地や海外への販路拡大も重要なテーマである。人的交流のある地域に仙台人を通じて草の根ネットワークを広げる、復興支援によるネットワークの活用、自治体トップセールスなどシティセールスと合わせた営業戦略などが求められる。

【商店街のエリアマネジメント】

・各商店街においてコンセプトを確立しエリアマネジメントを行う。
・商店街のテナント構成を分析しつつ、適切な出店を促し商店街のクオリティを高めるマネジメントの仕組みを作る。
・特にグランドレベル（１階路面）の店舗構成については十分な分析の元、エリアビジョンに沿った店舗を積極的に導入する。
・チャレンジショップとして新規出店者の伴走型支援も行う。
・200m 商圏が連続していくようテナントを配置する。

【地域経済循環の強化（地消地産）】

・仙台で売られる商品や飲食店の原材料、サービスの供給源を仙台でまかなうことにより、仙台に落ちるお金を仙台の中で循環させて地元の雇用や地域経済力を高め、安定させていく。
・実際の消費行動の分析から目標を設定し、段階的にメイドイン 仙台の比率を高めていく。
・地産地消ではなく地消地産の取り組みを官民あげて拡大する。

【仙台らしさをデザインする支援機関の強化】

・マーケティングから商品開発 , PR から販促まで、購入者の街での滞在時間を伸ばし、仙台でしか得られない体験とむすびつけた販売までのトータルデザインによる経営支援、産業支援を行う体制を公民連携で構築する。
・各事業者は製品そのものに仙台らしさを高める工夫を重ねる。

【伝統や文化を受け継ぐ】

・仙台初売りや仙台七夕まつりなどの、伝統行事の継承のための仕組みをつくる。
・店舗の歴史や店主の顔が見え、仙台らしさを醸し出す店舗とする。新しいイベントと老舗を融合させることにより老舗の顔が映える業態連携を促す。
・伝統を受け継ぐ若者の起業や仙台の課題を独自の手法で解決する社会的企業など、仙台の文化を涵養する事業を支援する。

【都市規模などの特徴を生かす】

・百万都市の規模を生かし、豊富な品揃えや専門的な逸品を揃える。
・ニッチな品揃えやこだわりの個店などの希少性を PR する。
・サッカー、野球、バスケットなどプロスポーツが揃っていることを生かし、観光産業の PR を強化する。
・ユニークベニュー[※1]を活用し、新たな観光産業を伸ばす。

※1
歴史的建造物、文化施設や公的空間等で、会議・レセプションを行うことで特別感や地域特性を演出できる会場

【地元に愛される居心地の良い店舗・街の強化】

・各店舗や街なかに佇むことのできるスポットをデザインする。
・それらのスポットを歩いて巡る街の回遊ルートや滞在プログラムをデザインし、街全体で 1 日を過ごす満足度を高め、リピート率を高める。
・光のページェントやジャズフェスティバルなどのイベント時に加えて、日常的に杜の都仙台や広瀬川を体感できるプログラムやオープンカフェ、マルシェなどを誘導する。

制度等による支援例

【商業業態の多様化にむけた固定資産税の抑制等】

アーケード街等においては、テナント賃料水準が高いために地元個店の出店ハードルが高い。エリアビジョンに沿った店舗は家賃補填や固定資産税の減免などの税制面での優遇措置も考えられる。

【地消地産事業への優遇政策、特別融資】

地消地産事業を創出する体制の整備とともに、マーケティングから商品企画までのコンサルティングなどの伴走型支援、新規事業への金融支援、特別融資枠の創設などが求められる。

【大規模商業施設の適正配置】

大規模商業施設については、仙台市のみならず周辺市町村も含めた仙台都市圏で規模や立地の制限をかける。

【グランドレベル（１階路面）のテナントマネジメント】

エリアビジョンに沿ったグランドレベルの用途や機能導入について、税制優遇や資金援助などのインセティブを与える。また、歩道に面する壁面の５割以上の透明化に関する設計・施工の費用補助などの環境整備も支援する。

【地元中小企業の経営支援、起業支援の強化】

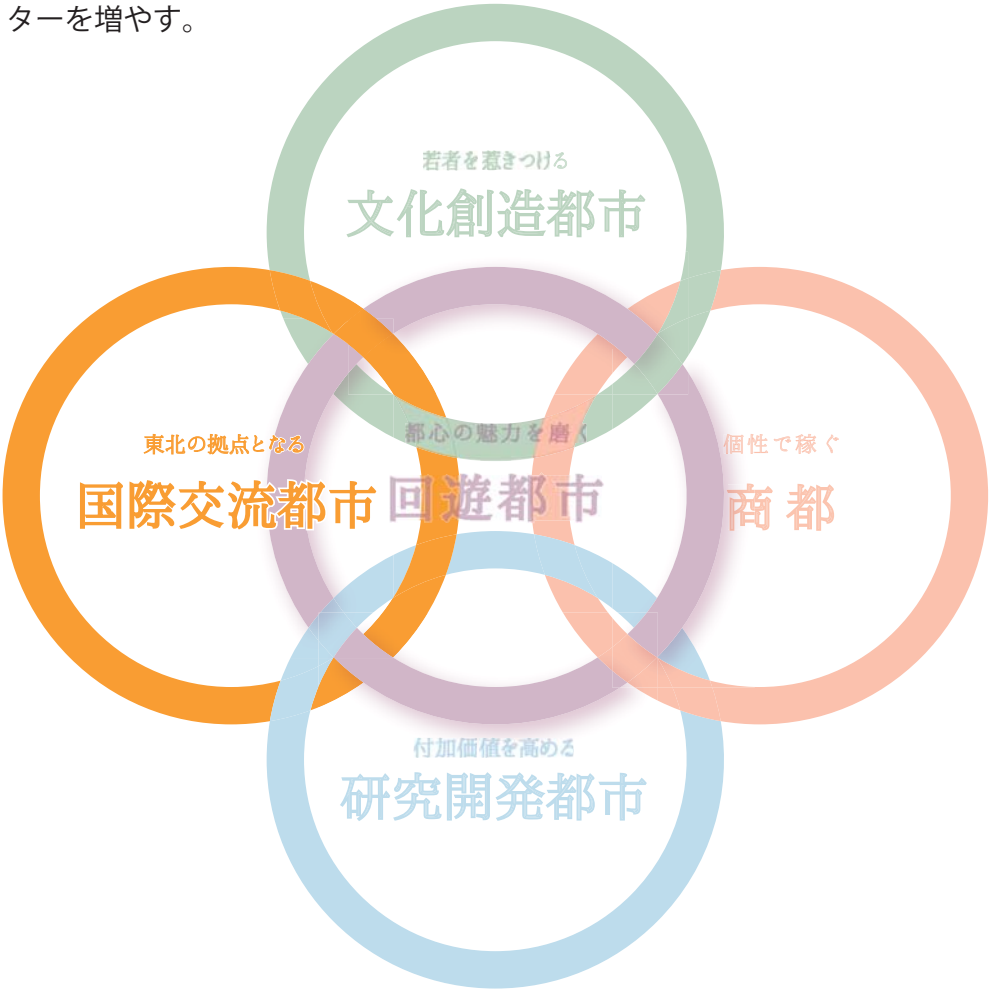
それぞれの企業の個性や特徴を伸ばして、売り上げの改善や新規事業創出につなげていくため、伴走型支援機能を持つ仙台商工会議所と他の中間支援機関との連携強化により、トータルサポートの水準を高める。

【まちづくりの方向性に沿った公共空間の利活用の円滑化】

エリアビジョンに沿って、一階店舗面前の道路空間の利活用を促進するための許認可の簡素化や、公園や河川空間のオープンスペース利活用の許認可の簡素化を行う。また、公共空間も含めたエリア一帯を地元主体のエリアマネジメントによるなかで、ビジョンに沿った利活用の自由度を高める。

指針４　東北の拠点となる国際交流都市

全国や世界に向けて東北の魅力発信や交流を深め、東北旅行の玄関口かつベースキャンプとして、宿泊施設の高度化、多様化などのニーズに応える。都市の魅力資源を磨き、体験型エンターテイメントの水準を高めリピーターを増やす。



東北の拠点となる国際交流都市

東北循環ネットワークのハブ機能の強化

【広域連携 ,Core Value の発信】

東北の魅力を全国や世界に向けて仙台が代表して発信することが求められている。広域連携とマーケティングに財源を集中投下し、仙台と東北の魅力が重なるコアバリューを打ち出す。

【MICE 誘致 , 留学生の活用】

Meeting（企業等の会議）、Incentive tour（企業等の報奨・研修旅行）、Convention（国際会議・学会等の会議）、Exhibition/Event（展示会・見本市やイベント）の頭文字で MICE と呼ばれる多くの集客や交流が見込まれるビジネスイベントの誘致に力を入れる。さらに仙台に大学が多い利点を活かして留学生を通じた地元情報の発信や地元企業への採用を契機（DATEntre の活用など）とした海外展開を強化する。

【東北・仙台の文化観光情報発信】

インバウンドも含め国内外から東北・仙台を訪れてもらうために、広域連携を仙台が牽引しながら、外国人に響くコンテンツ発掘・編集、官民の情報連携の強化により、東北・仙台の文化観光情報の発信機能を強化することが望まれる。

勾当台公園にある東北 227 市町村の魅力を発信する
Route227s' Cafe のホームページ

東北観光のベースキャンプ機能の強化

【宿泊施設の高度化と多様化】

仙台は東北の玄関口としてのゲート機能に加えて、東北観光のベースキャンプとして、最初か最後に一泊する目的地として、宿泊施設の充実が求められる。富裕層に対応したラグジュアリーホテル、また安価に泊まれるゲストハウス、インバウンドへの柔軟な対応など多様なニーズに応えつつ新たな需要を掘り起こしていく。

【多機関連携によるスムーズな移動（MaaS）の推進とアクセス整備】

・特にインバウンド対応のためにも官民を挙げての MaaS[※1] の取り組みが必要である。鉄道、バス、タクシーなどの交通機関と受け入れ先の観光施設、ホテル、レストランなどの連携が求められる（cf. 横浜 AI 交通）。

・仙台東道路の整備などにより仙台空港、仙台港へのアクセスの利便性と定時性を高く機能させる。

※1
Mobility as a Service. ICT を活用して様々な交通手段の検索・予約・決済を一つのサービスに統合する概念

AI交通導入事例（みなとみらい/関内エリア観光）

観光客　：**交通手段を調べる必要もなく、便利に観光が可能**
商業施設：観光客に**クーポンやお得な情報を配信し誘引可能**
交通機関：**最適な配車・ルートを導き出すことが可能**

※実証実験では４～６人乗りタクシーを利用

出典元：㈱ＮＴＴドコモ東北

【海外渡航の推奨，インバウンド・アウトバウンドの両立】

仙台市民一人一人が外の世界を体験することで、海外からの来訪者の心に響くおもてなしが高い水準で可能となる。仙台国際空港の利便性も活かし、仙台市民が海外へ行くよう官民あげて取り組む。特に仙台への来訪者が多い台湾、中国、タイなどアジア各都市へは震災復興支援への感謝をきっかけに積極的な交流をはかり、つながりを発展させたい。交流の増加が仙台国際空港の路線維持にもつながってくる。

【杜の都における体験の強化】

仙台ならではのイベントのクオリティと頻度を上げ、日常化に近づけるとともに、特に夜間・早朝の体験型エンターテイメントの創出と魅力を磨き、仙台インプレッション事業とあわせて、来訪者が仙台のファンになりリピーターとなることを目指す。

【データを活用した新たなサービスの創出】

インバウンド動向を百貨店の免税カウンターを拡充するなど把握し、ビッグデータに基づいて新しいサービスを展開する。

制度等による支援例

・多機関連携による MaaS の取り組み支援

・児童・生徒・学生への海外交流支援、国際交流仙台基金の創設

・宿泊施設の質・量双方の増加を支援する規制緩和や補助制度の充実

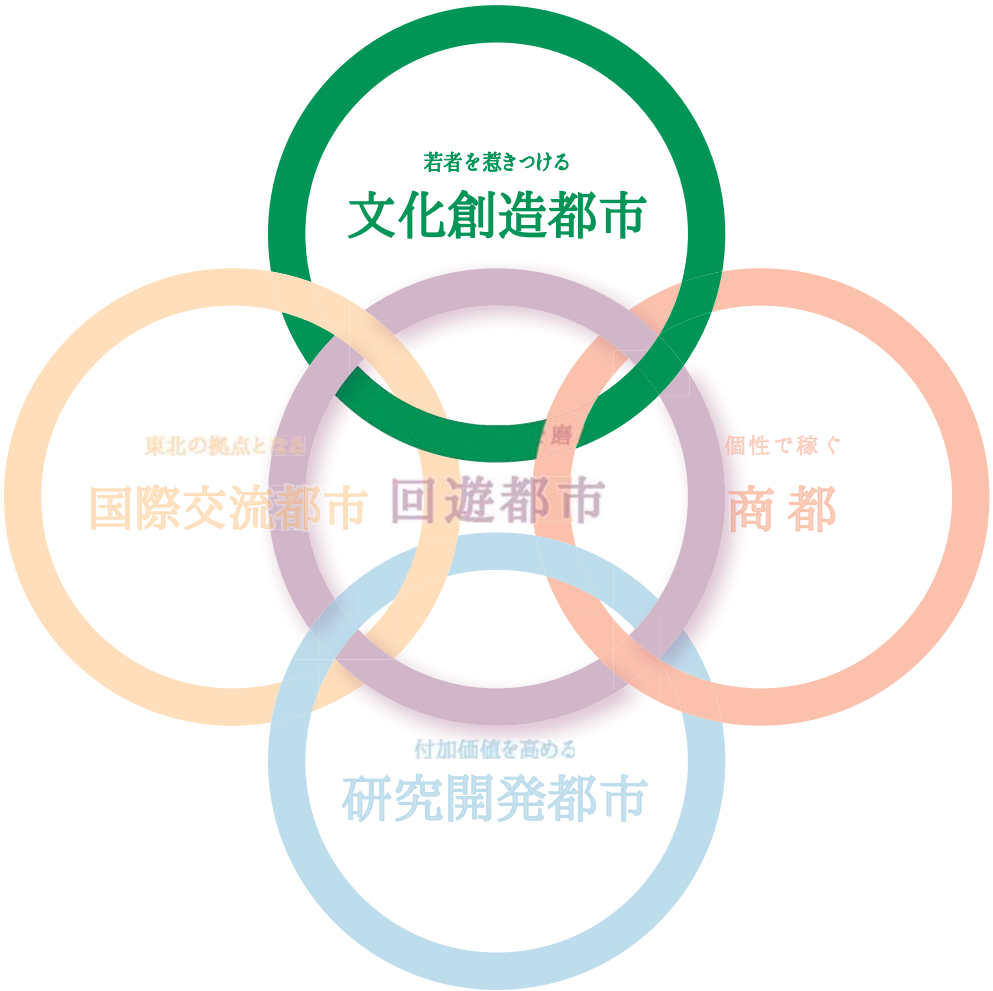
・対外的 PR の取りまとめ、拠点整備と運用

・仙台東道路：仙台港、仙台国際空港へのアクセス向上と物流環境の整備

・パブリックスペースにおける各種イベントの規制緩和や手続きの簡素化

指針５　若者を惹きつける文化創造都市

数多くのアーティストによる音楽や演劇、芸術とスポーツが東日本大震災からの心の復興を支えてきた。今後はさらに高水準のアートを生み出し、楽しむ文化を育むことにより、仙台市民と東北の人々の心の豊かさを支えていく。文化政策を基軸とした都市づくりにより、懐の深い多様性のある創造的な文化環境・教育環境を作り出す。



若者を惹きつける文化創造都市

【国際的・高水準なアートコンテンツ制作強化】

仙台で世界に通用する高水準なアート、音楽、演劇などを創ることを官民挙げて支援する。クリエイティブな人材が集まる環境を整え、交流事業により市民に刺激と多様性や寛容性を育む。質の高いコンテンツはより広域からの集客を期待でき、感性の高い市民を増やし、観光や産業へと発展する。例えば、新たなホール・劇場において、仙台フィルハーモニー管弦楽団の活躍の場を広げたり、舞台創造の人材育成拠点となり、アートを通じた国際交流が市民に広がることで、生活の中に音楽やアート、演劇が織り込まれたワクワクする仙台暮らしが都市の魅力となる。

【スポーツを活かしたまちづくりの推進】

仙台には様々なスポーツ団体があり、特に野球やサッカー、バスケットボールなど複数のプロ球団が存在している意義は大きい。子供に夢を与えることやスポーツマネジメントにより若者のイキイキとした暮らしを創出する。例えば、プロ選手のセカンドキャリアとして子供達への指導者や生涯スポーツのインストラクターとして活躍の場をさらに広げて市民サービスを向上することや、廃校となった校舎をスポーツ交流施設として活用することなど国内外の選手と地域との交流を促進することなども考えられる。

【インターン / 地元就業体験の充実】

学都と呼ばれる仙台には毎年５万人の学生が暮らしている。仙台都市圏も含めれば、オフィスや研究開発などの第三次産業を中心に農業、工業などの第一、第二次産業の事業所も多く、多様なインターンが可能である。特に中小企業・小規模事業所に光を当てて効果的にマッチングすることで、実践的な教育環境の創出と地元就職率の向上の両立が可能となる。また、学生が街に出て研究を行ったり、街中にサテライト研究室を置くことで街と学生双方に相乗効果が期待できる。

【歴史的建造物の保存・利活用】

仙台は戊辰戦争に敗れ、太平洋戦争で空襲を受けたことなどもあり、歴史的な建造物がほとんど残っていない。そのため数少ない歴史的な価値を持つ建造物を多様な手法で保全し、後世に伝える取り組みは重要である。

【ダイバーシティと働き方改革】

働きやすさは暮らしやすさに深く関係しており、担い手の確保・事業継続にも直接影響する。民間企業・行政ともに構成員一人一人が健康で文化的な暮らしができるよう意識と制度を変えつつ生産性を高めていく。

・UIJ ターンの積極的な受入れ
・ICT を活用したホームオフィスの普及による在宅勤務やオフィス外勤務の推奨
・待機児童ゼロを目指すことなど、子育てや介護などに関わりながらも、誰もが活躍できる多様性のある仕組みづくり
・誰もが地域の子育てに関わり続ける環境の構築、地域における子育てを担う機運の醸成
・女性、シニア、障がい者、外国人などの多様な活躍の場の創出

【魅惑的なまちづくり】

センシャス

センシャスシティランキング[※1]における調査指標は、街での暮らしが魅力的であり、人間の本能的な幸福感に繋がっているかを問われている。これらを高めるには、街の人が魅力的になり、偶然の出会いが生まれる場を増やし、寛容で、多様性を受け入れるまちづくりが求められる。東北で一番魅惑的な都市を目指す。

■都市の行動（「都市の動詞」）

共同体に帰属している	1	お寺や神社にお参りをした
	2	地域のボランティアやチャリティに参加した
	3	馴染みの飲み屋で店主や常連客と盛り上がった
	4	買い物途中で店の人や他の客と会話を楽しんだ
匿名性がある	5	カフェやバーで1人で自分だけの時間を楽しんだ
	6	平日の昼間から外で酒を飲んだ
	7	不倫のデートをした
	8	夜の盛り場でハメを外して遊んだ
ロマンスがある	9	デートをした
	10	ナンパした・された
	11	路上でキスした
	12	素敵な異性に見とれた
機会がある	13	刺激的で面白い人達が集まるイベント、パーティに参加した
	14	ためになるイベントやセミナー・市民講座に参加した
	15	コンサート、クラブ、演劇、美術館などのイベントで興奮・感動した
	16	友人・知人のネットワークで仕事を紹介された・紹介した
食文化が豊か	17	庶民的な店でうまい料理やお酒を楽しんだ
	18	地元でとれる食材を使った料理を食べた
	19	地酒、地ビールなど地元で作られる酒を飲んだ
	20	ミシュランや食ベログの評価の高いレストランで食事した
街を感じる	21	街の風景をゆっくり眺めた
	22	公園や路上で演奏やパフォーマンスしている人を見た
	23	活気ある街の喧騒を心地よく感じた
	24	商店街や飲食店から美味しそうな匂いが漂ってきた
自然を感じる	25	木陰で心地よい風を感じた
	26	公園や水辺で緑や水に直接ふれた
	27	美しい青空や朝焼け・夕焼けを見た
	28	空気が美味しくて深呼吸した
歩ける	29	通りで遊ぶ子供たちの声を聞いた
	30	外で思い切り身体を動かして汗をかいた
	31	家族と手を繋いで歩いた
	32	遠回り、寄り道していつもは歩かない道を歩いた

※1
2015 年 LIFULL HOME'S 総研による独自調査
仙台市 18 位 . 金沢市 8 位 , 盛岡市 14 位 , 福岡市 17 位

制度等による支援例

・文化政策への重点予算配分

・アート産業、クリエイティブ産業の支援

・新たなホール・劇場への世界有数の芸術監督（音楽監督）の招聘。および、ホールを運営する人材育成（演出・脚本家、照明、舞台芸術、ホール運営）

・スポーツマネジメントの人材育成とスポーツ環境の整備

・産官学連携による若者と地元中小企業や地域社会との交流促進

・歴史的建造物の保全に関する補助金等の支援

・待機児童ゼロの実現。保育士の質の向上、担い手の増加に向けた待遇改善

・地元の中小企業や小規模事業所の人事制度改革への支援、特に時代に合わせた働き方が提供できるよう、オフィスのリノベーションや、ＩＴ環境の整備費用の補助なども含む環境整備の支援

・働きやすい職場環境を目指す優良企業評価制度の確立

・異文化交流の推進による多文化共生社会の充実

仙台活性化まちづくり 2030 検討委員会
検討経過 / 委員名簿

■委員会

○第１回委員会
日時　2018 年 8 月 3 日（金）15:00 ～
事項　1）総合計画・都市マスタープランの概要説明
　　仙台市 まちづくり政策局長　福田 洋之 氏
　　都市整備局長　小野 浩一 氏
　　2）仙台の現状と課題についての意見交換

○第２回委員会
日時　2019 年 2 月 22 日（金）14:00 ～
事項　1）中間提言（骨子案）についての検討・意見交換

○2019 年度　第１回委員会
日時　2019 年 9 月 13 日（金）14:00 ～
事項　1）最終提言（案）についての検討・意見交換

■幹事会

○第１回幹事会
日時　2018 年 9 月 14 日（金）12:00 ～
事項　1）総合計画・都市マスタープランの概要説明
　　仙台市 まちづくり政策局 次長　梅内 淳 氏
　　都市整備局　次長　八木 裕一 氏
　　2）仙台の現状と課題についての検討・意見交換

○第２回幹事会
日時　2018 年 10 月 11 日（木）14:00 ～
事項　1）仙台のまちづくりの課題について
　　事例発表　・東北大学 姥浦研究室
　　・三井不動産㈱東北支店 次長　芦田 茂 氏
　　・三菱地所㈱東北支店 支店長　荒井 隆 氏
　　2）意見交換

○第３回幹事会
日時　2018 年 11 月 12 日（月）14:00 ～
事項　1）まちづくりにおける仙台の現状と課題について
　　～観光、交流人口拡大、インバウンド対応など～
　　事例発表　・㈱東北地域環境研究室 代表　志賀 秀一 氏
　　・仙台国際空港㈱ 代表取締役　岩井 卓也 氏
　　2）意見交換

○第４回幹事会
日時　2018 年 12 月 11 日（月）14:00 ～
事項　1）まちづくりにおける仙台の現状と課題について（商業・産業・ＩＴ等）
　　・東北学院大学教養学部地域構想学科 教授　柳井 雅也 氏
　　・㈱ＮＴＴドコモ東北支社 法人営業部長　山田 広之 氏
　　2）意見交換

○第５回幹事会
日時　2019 年 1 月 23 日（水）14:00 ～
事項　1）中間提言（骨子案）について
　　2）意見交換

○2019 年度　第１回幹事会
日時　2019 年 7 月 25 日（金）10:00 ～
講話　1）「せんだい都心再構築プロジェクト」について
　　仙台市まちづくり政策局 次長　梅内 淳 氏
事項　1）本提言へ向けての内容検討・意見交換

○2019 年度　第２回幹事会
日時　2019 年 8 月 22 日（木）10:00 ～
事項　1）本提言へ向けての最終検討・意見交換

■ワーキング会議

日　時　2019 年 6 月 27 日（木）16:30 ～
事　項　1）本提言の内容検討
出席者　・仙台活性化まちづくり 2030 検討委員会　委員長
　　東北大学大学院 准教授　姥浦 道生 氏
　　・東北学院大学教養学部地域構想学科 教授　柳井 雅也 氏
　　・㈱ドコモＣＳ東北 法人営業部長　山田 広之 氏
　　・㈱仙台協立 代表取締役　氏家 正裕 氏
　　・仙台国際空港㈱ 代表取締役　岩井 卓也 氏
　　・三菱地所㈱東北支店 支店長　荒井 隆 氏
　　・㈱ユーメディア 取締役　今野 彩子 氏

■中間提言

日　時　2019 年 4 月 2 日（火）14:30 ～
要望先　仙台市長　郡 和子 氏
要望者　仙台商工会議所 会頭　鎌田 宏
　　仙台活性化まちづくり 2030 検討委員会 委員長
　　東北大学大学院 准教授　姥浦 道生 氏
　※　巻末に中間提言を収録

■委員名簿

（順不同　敬称略）

会　頭	鎌田 宏	㈱七十七銀行
副会頭	加藤 博	東北発電工業㈱
〃	藤﨑 三郎助	㈱藤崎
〃	庄子 正文	㈲紫峰興産
〃	鈴木 賢	㈱バイタルネット
〃	渡辺 静吉	㈱仙台ビルディング
専務理事	今野 薫	仙台商工会議所
委員長	姥浦 道生	国立大学法人 東北大学大学院准教授
委　員	藤原 直	㈱金港堂・小売商業部会長
〃	田中 善一	㈱タゼン・卸売商業部会長
〃	佐々木 宏明	㈱橋本店・工業部会長
〃	新本 恭雄	セルコホーム㈱・貿易部会長
〃	氏家 照彦	㈱七十七銀行・理財部会長
〃	松坂 卓夫	松栄不動産㈱・不動産部会長
〃	菊地 徹	仙台運送㈱・交通運輸部会長
〃	菅原 一博	㈻菅原学園・文化観光部会長
〃	阿部 賀寿男	㈱阿部蒲鉾店
〃	辻 雅信	イオンリテール㈱ 東北カンパニー
〃	今野 克二	お茶の井ヶ田㈱
〃	田中 裕人	㈱菓匠三全
〃	佐藤 純	㈱河北新報社
〃	亀井 文行	カメイ㈱
〃	渡邉 博之	仙台駅前商店街振興組合
〃	田畑 正伍	㈳仙台卸商センター
〃	村山 光彦	公益財団法人 仙台観光国際協会
〃	鈴木 隆	㈱仙台銀行
〃	佐藤 万里子	仙台商工会議所女性会
〃	西牧 潤	仙台商工会議所青年部
〃	佐々木 昌二	㈱仙台タクシー
〃	松﨑 哲士郎	仙台ターミナルビル㈱
〃	稲木 甲二	㈱仙台放送
〃	山室 隆 （前：渡辺 憲一）	㈱仙台三越
〃	平田 尚久	大成建設㈱ 東北支店
〃	山崎 浩之	中央通り連合会・仙台市中心部商店街活性化協議会
〃	宮本 保彦	東北電力㈱ 宮城支店

〃	一力 敦彦	東北放送㈱
〃	須佐 尚康	東洋ワーク㈱
〃	山口 哲男	㈳日専連 仙台
〃	赤間 立也	日本通運㈱ 仙台支店
	(前：佐藤 武司)	
〃	中村 浩	東日本電信電話㈱ 宮城事業部
〃	吉田 圭吾	一般社団法人 日本旅行業協会東北支部
〃	藤原 直	東一番丁連合会
	（前：三田 惠介）	
〃	佐藤 吉雄	㈱東日本放送
〃	坂井 究	東日本旅客鉄道㈱ 仙台支社
〃	江馬 文成	㈱ビー・プロ
〃	田中 昌志	㈱藤崎
〃	千葉 嘉春	一般社団法人 宮城県建設業協会
〃	庄子 清一	公益社団法人 宮城県トラック協会
〃	青沼 正喜	宮城交通㈱
〃	大沼 裕之	㈱宮城テレビ放送
〃	星 倫市	杜の都信用金庫
〃	横山 英子	㈱横山芳夫建築設計監理事務所
〃	大城 秀峰	リードホーム㈱
〃	柳井 雅也	東北学院大学教養学部 地域構想学科教授
オブザーバー	福田 洋之	仙台市まちづくり政策局長
〃	遠藤 和夫	仙台市経済局長
〃	天野 元	仙台市文化観光局長
〃	小野 浩一	仙台市都市整備局長
アドバイザー	榊原 進	（特活）都市デザインワークス 代表理事
〃	佐藤 芳治	〃 理事・事務局長

■幹事名簿

（順不同　敬称略）

幹事長	姥浦 道生	国立大学法人 東北大学大学院准教授
幹　事	柳井 雅也	東北学院大学 教養学部地域構想学科教授
〃	志賀 秀一	㈱東北地域環境研究室
〃	徳永 幸之	公立大学法人 宮城大学事業構想学部
〃	桃野 智文	稲荷タクシー㈲
〃	佐藤 裕司	㈱カネサ藤原屋
〃	鈴木 素雄	㈱河北新報社
〃	相澤 隆郎	カメイ商事㈱
〃	村上 晃史	㈱近畿日本ツーリスト東北
	（前：野崎 佳政）	
〃	石井 光二	有限責任事業組合コムワーク・プロジェクト
〃	橋浦 隆一	今野印刷㈱
〃	齋藤 孝志	㈱サイコー
〃	茂田井 健太郎	㈱七十七銀行 地域開発部
	（前：小林 寛）	
〃	日下 晋	公益財団法人 仙台観光国際協会
〃	氏家 正裕	㈱仙台協立
〃	岩井 卓也	仙台国際空港㈱
〃	西牧 潤	仙台商工会議所青年部
〃	後藤 隆博	仙台ホテル総支配人協議会
〃	山崎 浩之	中央通り連合会・仙台市中心部商店街活性化協議会
〃	山田 広之	㈱ドコモＣＳ東北（前：㈱ＮＴＴドコモ 東北支社）
〃	山口 哲男	㈳日専連 仙台
〃	深松 努	㈱深松組
〃	福田 大輔	㈱福田商会
〃	田中 昌志	㈱藤崎
〃	井上 純	三井不動産㈱ 東北支店
	（前：伊藤 昇）	
〃	荒井 隆	三菱地所㈱ 東北支店
〃	今野 彩子	㈱ユーメディア
〃	今中 剛	㈱ＲＥＩ
オブザーバー	梅内 淳	仙台市まちづくり政策局次長
〃	岩城 利宏	仙台市経済局次長
〃	菊田 敦	仙台市文化観光局次長
〃	八木 裕一	仙台市都市整備局次長

仙台市総合計画と都市計画マスタープランへの提言　～仙台活性化まちづくり2030 中間提言～

仙台商工会議所
仙台活性化まちづくり2030 検討委員会

課題・危機感

社会経済環境が変化する大きな転換点

都心市街地の課題

▼復興優先による市街地更新の遅れに起因する都市間競争力の低下

▼中心部各エリアの個性•魅力の減少（駅前一極集中）

▼1 階の賑わい不連続（都心の平面駐車場 , 住宅の増加）

商業環境の課題

▼商圏人口の減少 , 吸引人口の減少
→商業環境の競争激化, 電子商取引, 巨大SC

▼大事業承継時代, ナショナルチェーンの増加

仙台市の経済課題（市内総生産）

▼復興需要（4 千億円）のリバウンドによる建設業 , 卸売•小売業の衰退
→雇用が減少し、生産人口の流出加速

▼社会経済的逆境の中でも、市内総生産 5 兆円を達成し雇用を創出

人口に関する課題

▼生産年齢人口の減少
（2015→2030年に8000人（1%以上）減）

▼若者の流出（東京圏へ 3500 人移出）

▼少子高齢化
・高齢者福祉需要の急増

観光・交流の課題

▼日本国内からの交流人口の獲得と
インバウンドの地域経済への反映

▼発信力 , キラーコンテンツの不足
・仙台らしさ , 文化 , 魅力の減少
・魅力の磨込み不足 , リピーター獲得へ

～人口 110 万人・総生産 5 兆円をめざして～
【挑戦都市・仙台】

社会が大きく変化する時代においても持続的な経済成長（SDGs）のために、多様な人や企業が仙台でチャレンジ（挑戦）しやすい環境づくりとともに、官民協働による既存の枠組みを超えたチャレンジ（挑戦）を積極的に推進し仙台発の新たな価値を創出する。

ビジョン ○方向性	具体例 民間	官民共創挑戦プロジェクト(PPP)	行政
巡り楽しむ回遊都市			
○エリアマネジメントによるシンボルエリアの魅力強化	・近代建築やキャンパスの整備	・定禅寺通エリアの活性化【現代美術館 , ホテル ,,,】 ・新庁舎と新市民広場の一体的な機能配置【商業交流 , 交通結節機能 ,,,,】	・老朽建物の更新及び機能の誘導（容積緩和 , 税制優遇 , 補助金）
○民間投資•公共投資の相乗効果による拠点強化	・老朽建物の改築 , リノベーション	・広瀬川一帯の環境整備【荒川•羽生ﾐｭｰｼﾞｱﾑ, 川床 ,,,】	・平面駐車場規制 , 附置義務緩和
○個性豊かな都心エリアの拡大強化と住環境整備		・音楽ホールを契機としたまちづくり ・交流の顔になる仙台駅周辺再開発の推進	・マンションの規制と誘導
○歩きやすく居心地の良い環境整備、巡りやすい交通整備	・１階賑わい機能の誘導	・「ウラ街」エリアの個性化 ・都心循環バス　・高速バスターミナル	・歩道拡幅 , 歩行者優先エリア ・防災•環境先進都市
個性で稼ぐ商都			
○地元に愛される居心地の良い店舗・街の強化	・こだわりの個店の推奨 ・老舗の顔が見える業態連携	・商店街のテナントマネジメント	・賑わいづくりの仕組み化
○伝統や文化を受け継ぐ仙台らしい店舗・街の強化	・インバウンド対策 ・ソフト•ハード両面の受入態勢整備 ・誘客・情報発信	・地域経済循環の向上（地消地産）	・商業業態の多様化にむけた固定資産税の抑制等
○豊富な品揃えや先進サービスと杜の都での体験の連携強化		・プロスポーツを活かしたまちづくり ・キャッシュレスとデータ利活用でスマートに稼ぐ商店街	・大規模商業施設の適正配置
付加価値を高める研究開発都市			
○大学や放射光施設を活かした研究開発により稼ぐ街に	・研究開発投資 / 大学の情報発信	・放射光施設の活用 / インキュベーション	・科学産業への優遇政策マッチング支援
○チャレンジ＆イノベーションを促す環境強化	・ビッグデータ解析	・ICT 官学民連携 / データセンシング	・国家戦略特区の活用
○産業の高度化と雇用の多様化による生産性向上	・生産性向上 ・新形態ワークプレイスの供給	・X-Tech, 自動循環バス ,AI タクシー ・起業・小さな商売の強化	・経済成長戦略の推進
若者を惹きつける文化創造都市			
○国際的・高水準な文化芸術の創生	・エンターテイメントの強化	・高水準なアートコンテンツ制作強化 ・歴史的建造物の再生・利活用	・文化政策によるまちづくり
○歴史・風土を活かし豊かで高度な教育環境の創出	企業の人事制度改革 ・UIJ ターン受入 ・女性が活躍しやすい仕組み ・ICT ホームオフィス	・インターン / 就業就農体験の充実 ・キャンパスタウン , 街中での教育•研究	・子育て•教育支援の充実
○スローライフな暮らしやすく子育てしやすい環境づくり		・空き家活用したコミュニティ拠点	・高齢者のコミュニティ支援
東北の拠点となる国際交流都市			
○東北循環ネットワークのハブ機能の強化	・宿泊施設の供給強化と多様化	全国広域エリアとの連携 ,Core Value の発信 ・国際交流 , 留学生増　・学会誘致	・仙台東道路　仙台港 , 空港へのアクセス向上と物流環境の整備
○東北観光のベースキャンプ機能の強化	・百貨店の免税カウンターを拡充しインバウンド動向を把握	・MICE 誘致　・スムーズな移動（MaaS） ・東北•仙台の文化観光情報発信拠点整備	・交流人口活性化戦略の推進
○仙台と海外を直結し , 杜の都での体験の強化		・地域資源を発掘 , 魅力を磨く →体験型エンターテイメント, リピート率 UP ・海外渡航の推奨 , イン・アウトの両立	・イベントの手続•規制緩和

仙台活性化まちづくり２０３０検討委員会

仙台市総合計画と都市計画マスタープランへの提言書

発　行　日　　２０１９年１０月

発　　行　　仙台商工会議所

〒980-8414　　仙台市青葉区本町２-16-12

TEL：022-265-8181　　FAX：022-217-1551